

鳥取県がん検診実績報告書

平成22年 3 月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

平成20年度の検診実績によると、平成19年度に比べ、乳がん検診は若干受診者数が増加し、子宮がん検診はほぼ横ばいですが、その他のがん検診は受診者数が減少しました。その要因の一つとしては、平成20年度から特定健診が始まり、市町村では特定健診とがん検診のセット検診を計画しているところが多いが、市町村国保以外の住民はがん検診だけを受診することになり、住民への周知不足、また、自己負担額を一部増額したところもあり、前年度より受診者数が減少したと考えられます。

また、平成20年度実績より、対象者の捉え方について国の集計方式を採用したことにより、平成19年度に比べ対象者数が検診別にみると10,000～17,000人増えています。一方、受診率は子宮がん、乳がん検診は僅かな減少でしたが、胃がん、肺がん、大腸がん検診においては、3～5ポイントも減少しています。

鳥取県がん対策推進計画においては、平成24年度は受診率50%以上達成を目指していますが、実現は非常に困難な状況となっています。受診率向上対策として、検診料金、自己負担の見直し、住民のニーズにあった検診方法、受診勧奨の仕方、などの検討も急がれます。また、単年度ごとの目標設定、検診の母集団、対象者の捉え方の検討も必要と考えます。

国では、がん検診受診率50%を目標に様々な取組みをしており、平成20年度から妊婦健診において子宮頸部がん検診が行なわれるようになりました。更に、平成21年度は女性特有のがん対策として、乳がんと子宮がん検診の経費が国の緊急経済対策のひとつとして補正予算化され、各市町村では対象となる節目の年齢の女性に対して無料クーポン券を配布しており、このような取組みが受診率向上に繋がることを期待しています。

鳥取県においては、「市町村がん検診知事表彰」が平成21年度に新設され、総合部門、優良取組部門、各がん検診部門で選出された市町村が、9月に開催された「鳥取県がん征圧大会」で表彰されました。更に、「がん検診受診率向上プロジェクト2009～新規受診者を掘り起こせ!～」として、休日がん検診支援事業や、がん検診未受診者掘り起こしモデル事業等が行われており、平成22年度も継続されることとなっております。

本会においても、これらの事業に引き続き参画し、積極的に取り組んで参りたいと存じますので、行政機関、各医師会、鳥取大学医学部の更なるご協力、ご指導を賜りますようお願い致します。

平成22年 3月

鳥取県健康対策協議会

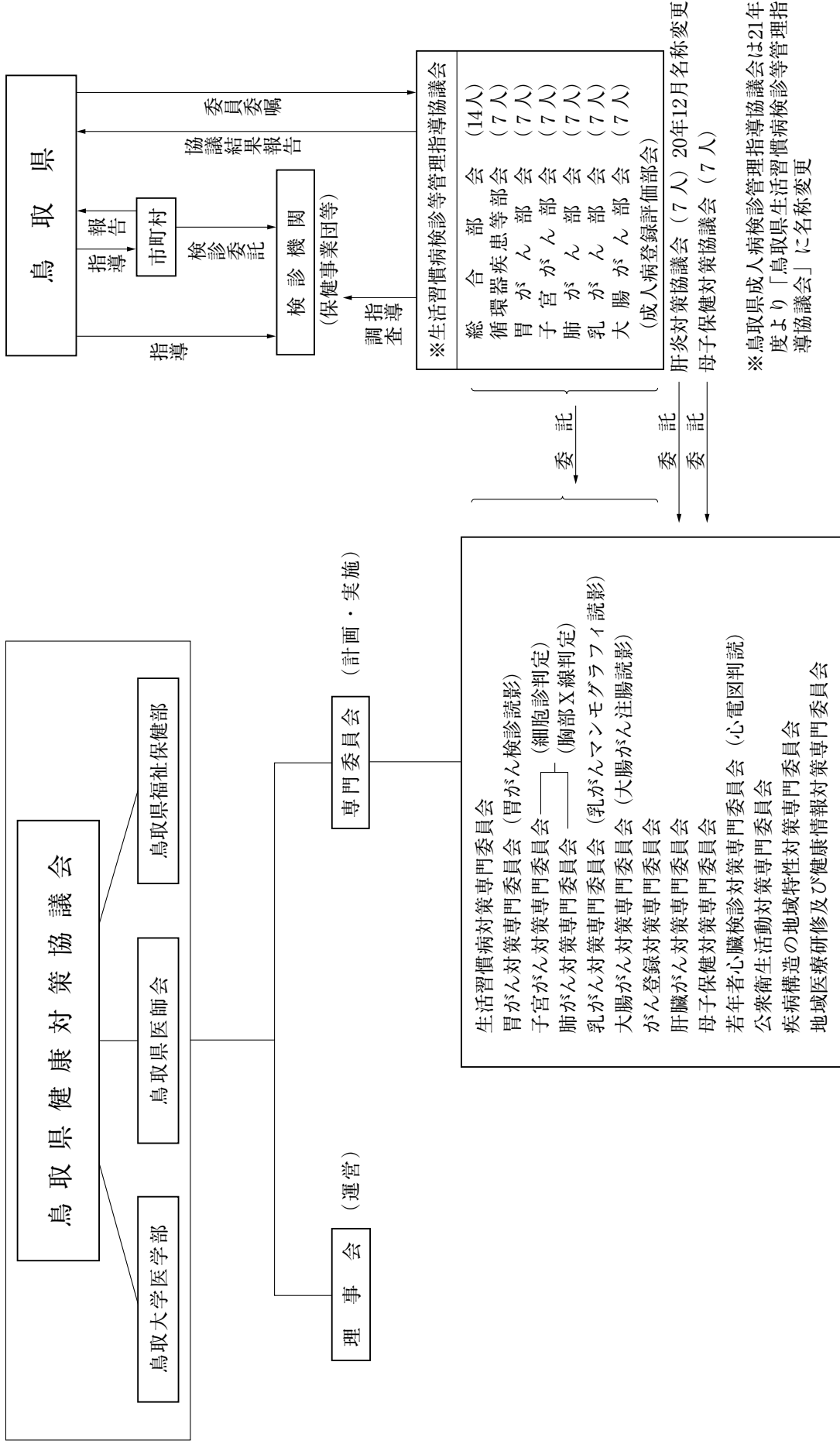
会 長 岡 本 公 男

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成20年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	16
3. 肺がん検診	24
4. 乳がん検診	37
5. 大腸がん検診	46
6. 肝臓がん検診	55
7. 全国がん検診実績との比較	67
III. 平成21年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 子宮がん検診症例研究会報告	70
2. 肺がん検診症例研究会報告	72
3. 乳がん検診症例研究会報告	75
4. 肝臓がん検診症例研究会報告	77
5. 各地区がん検診症例検討会開催状況	81
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	82

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



※生活習慣病検診等管理指導協議会
 総合部会 (14人)
 循環器疾患等部会 (7人)
 胃がん部会 (7人)
 子宮がん部会 (7人)
 肺がん部会 (7人)
 乳がん部会 (7人)
 大腸がん部会 (7人)
 (成人病登録評価部会)

肝炎対策協議会 (7人) 20年12月名称変更
 母子保健対策協議会 (7人)

※鳥取県成人病検診管理指導協議会は21年度より「鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会」に名称変更

Ⅱ. 平成20年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務課長通知）

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの老人保健事業に基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：精密検査受診者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 が ん 検 診

1. 胃がん検診実績

平成20年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）188,186人のうち、受診者数はX線検査18,099人、内視鏡検査は24,700人で合計42,799人、受診率は22.7%で、平成19年度より3.1ポイント減少した。対象者数は全市町村で国が示している対象者の算定方法を取り入れられた結果、平成19年度より16,656人増えた。内視鏡検査の実施割合は57.7%である。

平成20年度から特定健診が始まり、市町村では特定健診とがん検診のセット検診を計画しているところが多いが、市町村国保以外の住民はがん検診だけを受診することになり、住民への周知不足、また、自己負担額を一部増額したところもあり、前年度より受診者数が減少している。

全国平均受診率10.2%に比べると鳥取県は非常に良い成績であり、全国で2位と高い。

検査の結果、胃がんであった者は144人発見され（X線検査31人、内視鏡検査113人）、がん発見率は0.34%であった。全国平均がん発見率0.15%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.17%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.46%で2.7倍も高い。

確定調査の結果、確定癌は153例、発見癌率は0.36%であった。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は18,099人、受診率は9.6%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は1,363人で、要精検率は7.5%。このうち、精密検査を受診したのは1,131人、精検受診率は83.0%であった。車検診の要精検率6.1%、昨年度と同様に東部が4.3%と低かった。施設検診は11.3%で、依然として中部が21.2%と高い。

精検結果は、胃がんであった者は31人で、胃がん発見率は0.17%であった。

- (2) 内視鏡検査は、15市町村で実施され、受診者数は24,700人で、検査結果は胃がんであった者は113人が発見され、発見率は0.46%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数2,195人で、組織診実施率8.9%で、市町村で格差がある。特に鳥取市は11.5%と高いが、委員の方で個別に指導等を行っている。

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成20年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは153例（一次検査がX線検査：車検診19例、施設検診13例、一次検査内視鏡検査：121例）であった。発見癌率は0.357%であった。現在調査中が4件ある。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は120例、進行癌は33例であった。早期癌率は78.4%で、東部78.8%、中部50.0%、西部85.5%であった。
- (2) 切除例は145例で、そのうち内視鏡切除が48例で全体の1/3を占め、増えている。非切除例が8例で、全て手術不能であった。高齢者の症例が最近増えてきていることが影響していると思われる。
- (3) 性・年齢別では、男性102例、女性51例であった。80歳以上が全体の2割を占めている。40歳代、50歳代の女性からがんが7例見つかり、若年層の受診勧奨が必要と思われる。
- (4) 早期癌では「IIc」が59.2%で大半を占めている。進行癌では「1」、「2」で51.5%を占めている。例年どおりの結果であった。
- (5) 切除例の深達度では「t1」が118例で、そのうちmが89例であった。
- (6) 切除例の大きさは2cm以内が46.7%であった。車検診では43.8%、施設検診では8.3%、内視鏡

検査では51.4%で、小さいものが多く見つっている。

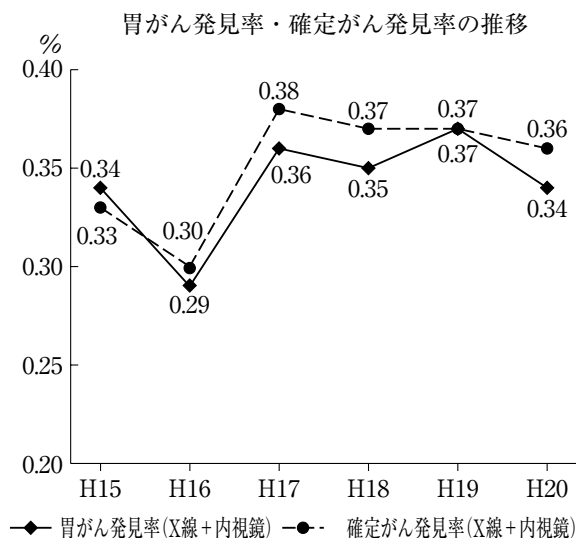
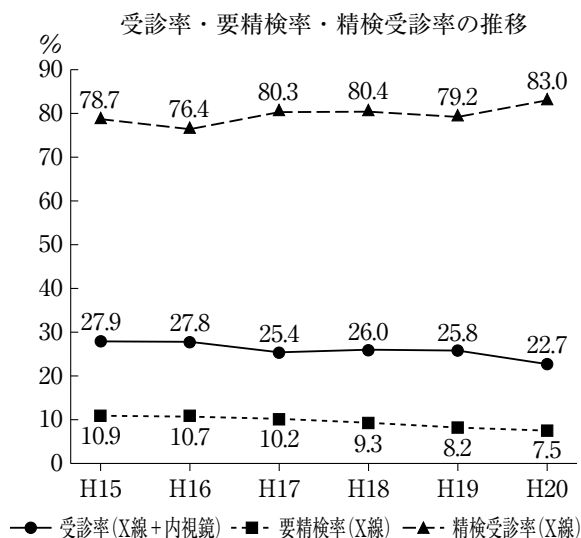
- (7) 早期癌の占拠部位は、内視鏡検査ではX線検査では見つかりにくい前壁が多く発見されている。
- (8) 肉眼での進行度stage I aはX線検査20例で64.5%、内視鏡検査97例で83.6%だった。
- (9) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部4件、中部6件、西部2件であった。
内視鏡検診が開始され約10年経過し、早期癌が多く発見され、内視鏡切除も増えている。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		15 年 度			16 年 度			17 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			171,941			167,900			177,428
	受 診 者 数(人) B	31,587	16,459	48,046	28,963	17,666	46,629	25,784	19,339	45,123
	受 診 率(%) C = B/A	18.4	9.6	27.9	17.3	10.5	27.8	14.5	10.9	25.4
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	28,153			25,859			23,156		
	要 精 検 者 数(人) E	3,434			3,104			2,628		
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.9			10.7			10.2		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,702			2,372			2,109		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	78.7			76.4			80.3		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	70(4)	94(20)	164(24)	51(7)	85(20)	136(27)	53(7)	109(38)	162(45)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.22	0.57	0.34	0.18	0.48	0.29	0.21	0.56	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.6			2.2			2.5		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	69	89	158	51	87	138	53	117	170
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.22	0.54	0.33	0.18	0.49	0.30	0.21	0.60	0.38

区 分		18 年 度			19 年 度			20 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			174,051			171,530			188,186
	受 診 者 数(人) B	23,247	21,945	45,192	20,507	23,765	44,272	18,099	24,700	42,799
	受 診 率(%) C = B/A	13.4	12.6	26.0	12.0	13.9	25.8	9.6	13.1	22.7
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	21,085			18,818			16,736		
	要 精 検 者 数(人) E	2,162			1,689			1,363		
	要 精 検 率(%) F = E/B	9.3			8.2			7.5		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,738			1,337			1,131		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	80.4			79.2			83.0		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	46(11)	112(32)	158(43)	35(6)	131(31)	166(37)	31(5)	113(44)	144(49)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.20	0.51	0.35	0.17	0.55	0.37	0.17	0.46	0.34
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.6			2.6			2.7		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	49	117	166	36	126	162	31	122	153
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.21	0.53	0.37	0.18	0.53	0.37	0.17	0.49	0.36

- ※ 1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※ 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※ 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精密検査受診者を分母として算出
- ※ 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成20年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診 受診者数 (人)		受診率 (%)		一次検診結果				要精検率 (%)	
	a		b		c = b/a		要精検者数 d		異常認めず		e = d/b	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	2,115	4,207	178	445	8.4	10.6	19	16	159	429	10.7	3.6
45～49歳	2,560	4,460	237	541	9.3	12.1	18	25	219	516	7.6	4.6
50～54歳	3,635	6,518	345	861	9.5	13.2	33	60	312	801	9.6	7.0
55～59歳	5,170	9,630	633	1,392	12.2	14.5	56	86	577	1,306	8.8	6.2
60～64歳	8,313	12,735	1,010	1,862	12.1	14.6	101	122	909	1,740	10.0	6.6
65～69歳	10,826	15,529	1,306	1,995	12.1	12.8	109	124	1,197	1,871	8.3	6.2
70～74歳	12,955	18,248	1,328	2,059	10.3	11.3	111	158	1,217	1,901	8.4	7.7
75～79歳	14,347	24,235	1,000	1,433	7.0	5.9	90	93	910	1,340	9.0	6.5
80歳以上	9,589	23,114	658	816	6.9	3.5	70	72	588	744	10.6	8.8
計	69,510	118,676	6,695	11,404	9.6	9.6	607	756	6,088	10,648	9.1	6.6
合 計	188,186		18,099		9.6		1,363		16,736		7.5	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人)		精密検査 受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異 常 認 め ず		その他の 疾 病		胃がん 疑 い		胃がん h		i = h/b			j = h/f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	13	16	68.4	100.0	82.9	3	4	9	12	0	0	1	0	0.562	0.000	0.161	7.7	0.0	3.4
45～49歳	14	22	77.8	88.0	83.7	4	5	10	17	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	22	51	66.7	85.0	78.5	3	15	18	36	0	0	1	0	0.290	0.000	0.083	4.5	0.0	1.4
55～59歳	48	74	85.7	86.0	85.9	11	21	37	53	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	79	108	78.2	88.5	83.9	17	33	61	73	0	0	1	2	0.099	0.107	0.104	1.3	1.9	1.6
65～69歳	79	102	72.5	82.3	77.7	15	26	61	75	1	1	2	0	0.153	0.000	0.061	2.5	0.0	1.1
70～74歳	90	139	81.1	88.0	85.1	22	38	59	94	1	1	8	6	0.602	0.291	0.413	8.9	4.3	6.1
75～79歳	81	77	90.0	82.8	86.3	14	20	62	55	0	0	5	2	0.500	0.140	0.288	6.2	2.6	4.4
80歳以上	57	59	81.4	81.9	81.7	19	11	35	47	0	1	3	0	0.456	0.000	0.204	5.3	0.0	2.6
計	483	648	79.6	85.7	83.0	108	173	352	462	2	3	21	10	0.314	0.088	0.171	4.3	1.5	2.7
合 計	1,131		83.0			281		814		5		31		0.171			2.7		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

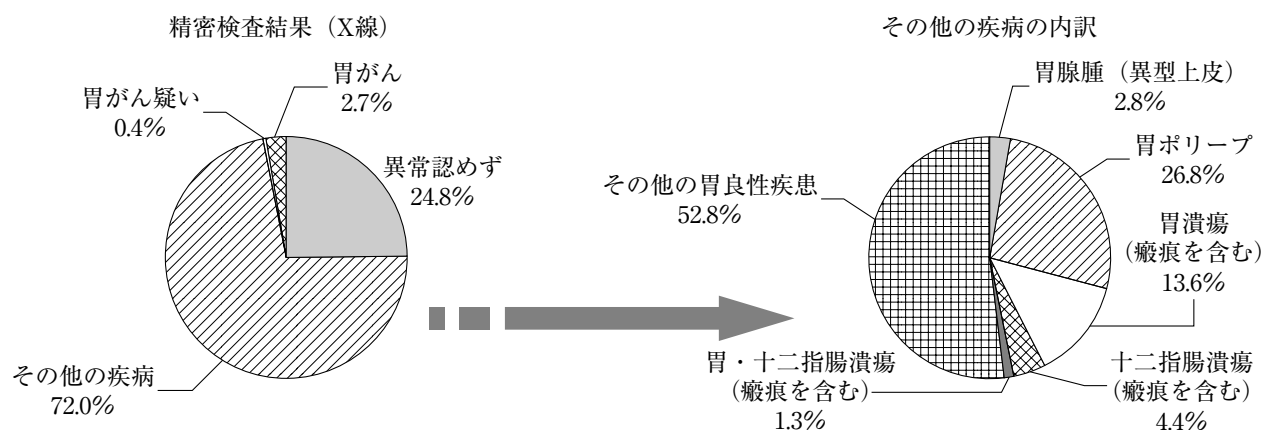
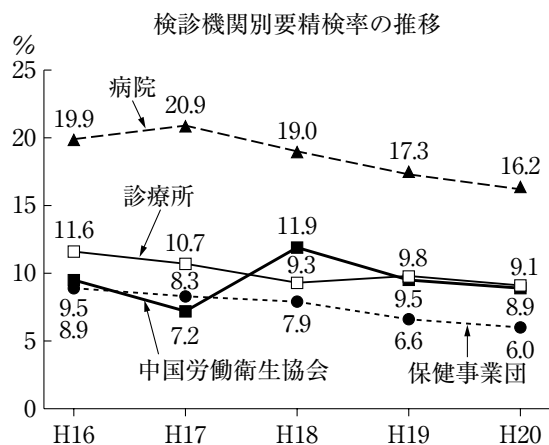
一次検診機関	一次検診 受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,821	7,970	364	408	4,457	7,562	7.6	5.1	6.0
中国労働衛生協会	150	164	15	13	135	151	10.0	7.9	8.9
病 院	439	1,084	92	155	347	929	21.0	14.3	16.2
診 療 所	1,285	2,186	136	180	1,149	2,006	10.6	8.2	9.1
計	6,695	11,404	607	756	6,088	10,648	9.1	6.6	7.5
合 計	18,099		1,363		16,736		7.5		

b. 精密検診結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'		g' = f'/a'			h' = f'/d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	299	357	82.1	87.5	85.0	77	92	209	257	1	2	12	6	0.249	0.075	0.141	4.0	1.7	2.7
中国労働衛生協会	12	13	80.0	100.0	89.3	3	7	9	5	0	0	0	1	0.000	0.610	0.318	0.0	7.7	4.0
集団検診小計	311	370	82.1	87.9	85.1	80	99	218	262	1	2	12	7	0.241	0.086	0.145	3.9	1.9	2.8
病院	61	125	66.3	80.6	75.3	14	34	42	89	1	0	4	2	0.911	0.185	0.394	6.6	1.6	3.2
診療所	111	153	81.6	85.0	83.5	14	40	92	111	0	1	5	1	0.389	0.046	0.173	4.5	0.7	2.3
医療機関検診小計	172	278	75.4	83.0	79.9	28	74	134	200	1	1	9	3	0.522	0.092	0.240	5.2	1.1	2.7
計	483	648	79.6	85.7	83.0	108	173	352	462	2	3	21	10	0.314	0.088	0.171	4.3	1.5	2.7
合計	1,131		83.0			281		814		5		31		0.171			2.7		

検診機関別要精検率の推移(%)

一次検診機関	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
保健事業団	8.9	8.3	7.9	6.6	6.0
中国労働衛生協会	9.5	7.2	11.9	9.5	8.9
集団検診小計	8.9	8.3	8.0	6.6	6.1
病院	19.9	20.9	19.0	17.3	16.2
診療所	11.6	10.7	11.9	9.8	9.1
医療機関検診小計	14.1	13.3	11.8	11.9	11.3
合計	10.7	10.2	9.3	8.2	7.5



4) 平成20年度鳥取県胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 (人)	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	がん疑い N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	56,203	1,820	2,699	4,519	8.0	90	308	398	8.8	305	76.6	56	242	1	6	249	0.133	2.0
米子市	41,718	606	1,690	2,296	5.5	41	173	214	9.3	180	84.1	44	129	1	6	136	0.261	3.3
倉吉市	17,326	1,329	53	1,382	8.0	134	16	150	10.9	137	91.3	44	91	0	2	93	0.145	1.5
境港市	10,887	60	250	310	2.8	3	23	26	8.4	24	92.3	5	16	1	2	19	0.645	8.3
岩美町	4,781	780	0	780	16.3	28	0	28	3.6	27	96.4	3	22	0	2	24	0.256	7.4
八頭町	6,612	1,661	5	1,666	25.2	73	1	74	4.4	60	81.1	12	47	0	1	48	0.060	1.7
若桜町	1,864	385	0	385	20.7	8	0	8	2.1	7	87.5	0	7	0	0	7	0.000	0.0
智頭町	3,343	298	185	483	14.4	13	30	43	8.9	40	93.0	10	28	0	2	30	0.414	5.0
湯梨浜町	5,856	630	8	638	10.9	57	2	59	9.2	46	78.0	17	28	0	1	29	0.157	2.2
三朝町	2,750	472	26	498	18.1	34	0	34	6.8	18	52.9	4	12	0	2	14	0.402	11.1
北栄町	5,699	889	15	904	15.9	80	3	83	9.2	70	84.3	23	44	1	2	47	0.221	2.9
琴浦町	7,298	1,199	2	1,201	16.5	56	1	57	4.7	57	100.0	15	41	0	1	42	0.083	1.8
南部町	4,188	435	60	495	11.8	31	6	37	7.5	29	78.4	11	18	0	0	18	0.000	0.0
伯耆町	4,502	813	0	813	18.1	42	0	42	5.2	38	90.5	10	27	1	0	28	0.000	0.0
日吉津村	897	190	0	190	21.2	15	0	15	7.9	14	93.3	6	8	0	0	8	0.000	0.0
大山町	7,684	677	0	677	8.8	37	0	37	5.5	33	89.2	9	22	0	2	24	0.295	6.1
日南町	3,182	316	0	316	9.9	21	0	21	6.6	16	76.2	1	14	0	1	15	0.316	6.3
日野町	1,843	268	1	269	14.6	14	0	14	5.2	9	64.3	2	7	0	0	7	0.000	0.0
江府町	1,553	277	0	277	17.8	23	0	23	8.3	21	91.3	9	11	0	1	12	0.361	4.8
合計	188,186	13,105	4,994	18,099	9.6	800	563	1,363	7.5	1,131	83.0	281	814	5	31	850	0.171	2.7
東部	72,803	4,944	2,889	7,833	10.8	212	339	551	7.0	439	79.7	81	346	1	11	358	0.140	2.5
中部	38,929	4,519	104	4,623	11.9	361	22	383	8.3	328	85.6	103	216	1	8	225	0.173	2.4
西部	76,454	3,642	2,001	5,643	7.4	227	202	429	7.6	364	84.8	97	252	3	12	267	0.213	3.3

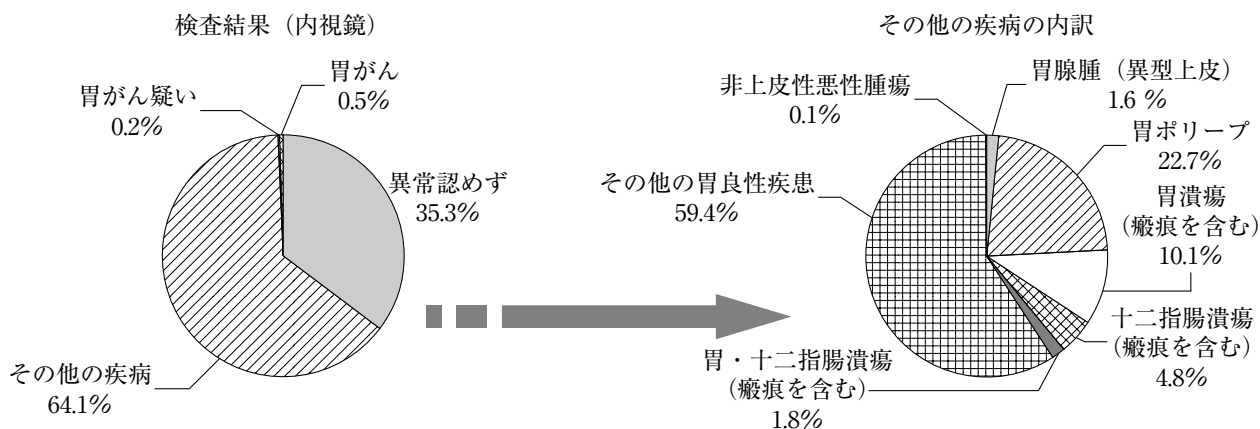
(3) 平成20年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	152	478	69	216	83	262	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	203	566	81	237	121	328	1	0	0	1	0.000	0.177	0.130
50～54歳	307	825	90	310	215	513	0	0	2	2	0.651	0.242	0.353
55～59歳	539	1,361	162	457	371	900	1	0	5	4	0.928	0.294	0.474
60～64歳	1,230	2,302	363	845	858	1,451	2	3	7	3	0.569	0.130	0.283
65～69歳	1,900	2,782	617	1,051	1,250	1,718	12	2	21	11	1.105	0.395	0.683
70～74歳	1,957	3,002	623	1,100	1,318	1,893	4	3	12	6	0.613	0.200	0.363
75～79歳	1,595	2,420	519	920	1,060	1,493	3	4	13	3	0.815	0.124	0.399
80歳以上	1,231	1,850	405	643	809	1,192	5	4	12	11	0.975	0.595	0.747
計	9,114	15,586	2,929	5,779	6,085	9,750	28	16	72	41	0.790	0.263	0.457
合 計	24,700		8,708		15,835		44		113		0.457		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数(人) a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	2,443	4,087	537	1,077	1,880	2,995	11	4	15	11	0.614	0.269	0.398
診療所	6,671	11,499	2,392	4,702	4,205	6,755	17	12	57	30	0.854	0.261	0.479
計	9,114	15,586	2,929	5,779	6,085	9,750	28	16	72	41	0.790	0.263	0.457
合計	24,700		8,708		15,835		44		113		0.457		



3) 平成20年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検 査 結 果 別 人 員								
	受診者数 (人)	組織診 実施者数	組織診 実施率 (%)	異 常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見率 (%)
	A	B	C = B/A	D	E	F	G	H = E+F+G	I = G/A
鳥取市	9,755	1,120	11.5	1,866	7,821	22	46	7,889	0.472
米子市	9,210	593	6.4	4,004	5,155	14	37	5,206	0.402
倉吉市	590	54	9.2	535	48	1	6	55	1.017
境港市	2,033	153	7.5	820	1,196	5	12	1,213	0.590
岩美町	166	4	2.4	26	140	0	0	140	0.000
八頭町	83	11	13.3	31	51	0	1	52	1.205
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	324	24	7.4	149	173	0	2	175	0.617
湯梨浜町	594	98	16.5	289	299	0	6	305	1.010
三朝町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北栄町	218	18	8.3	71	147	0	0	147	0.000
琴浦町	523	18	3.4	354	169	0	0	169	0.000
南部町	672	61	9.1	321	349	0	2	351	0.298
伯耆町	184	14	7.6	48	135	1	0	136	0.000
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日南町	81	7	8.6	74	7	0	0	7	0.000
日野町	84	9	10.7	11	72	1	0	73	0.000
江府町	183	11	6.0	109	73	0	1	74	0.546
合 計	24,700	2,195	8.9	8,708	15,835	44	113	15,992	0.457
東 部	10,328	1,159	11.2	2,072	8,185	22	49	8,256	0.474
中 部	1,925	188	9.8	1,249	663	1	12	676	0.623
西 部	12,447	848	6.8	5,387	6,987	21	52	7,060	0.418

(4) 平成20年度胃がん検診受診状況（X線十内視鏡）

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果および内視鏡検査結果別人員						
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K=I/D	
鳥取市	56,203	4,519	9,755	14,274	25.4	1,922	8,063	23	52	8,138	0.364	
米子市	41,718	2,296	9,210	11,506	27.6	4,048	5,284	15	43	5,342	0.374	
倉吉市	17,326	1,382	590	1,972	11.4	579	139	1	8	148	0.406	
境港市	10,887	310	2,033	2,343	21.5	825	1,212	6	14	1,232	0.598	
岩美町	4,781	780	166	946	19.8	29	162	0	2	164	0.211	
八頭町	6,612	1,666	83	1,749	26.5	43	98	0	2	100	0.114	
若桜町	1,864	385	0	385	20.7	0	7	0	0	7	0.000	
智頭町	3,343	483	324	807	24.1	159	201	0	4	205	0.496	
湯梨浜町	5,856	638	594	1,232	21.0	306	327	0	7	334	0.568	
三朝町	2,750	498	0	498	18.1	4	12	0	2	14	0.402	
北栄町	5,699	904	218	1,122	19.7	94	191	1	2	194	0.178	
琴浦町	7,298	1,201	523	1,724	23.6	369	210	0	1	211	0.058	
南部町	4,188	495	672	1,167	27.9	332	367	0	2	369	0.171	
伯耆町	4,502	813	184	997	22.1	58	162	2	0	164	0.000	
日吉津村	897	190	0	190	21.2	6	8	0	0	8	0.000	
大山町	7,684	677	0	677	8.8	9	22	0	2	24	0.295	
日南町	3,182	316	81	397	12.5	75	21	0	1	22	0.252	
日野町	1,843	269	84	353	19.2	13	79	1	0	80	0.000	
江府町	1,553	277	183	460	29.6	118	84	0	2	86	0.435	
合計	188,186	18,099	24,700	42,799	22.7	8,989	16,649	49	144	16,842	0.336	
東部	72,803	7,833	10,328	18,161	24.9	2,153	8,531	23	60	8,614	0.330	
中部	38,929	4,623	1,925	6,548	16.8	1,352	879	2	20	901	0.305	
西部	76,454	5,643	12,447	18,090	23.7	5,484	7,239	24	64	7,327	0.354	

(5) 平成20年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	5	6	55	8	0	10	6	7	56	153
癌 発 見 率 %	0.101	0.208	0.533	0.177	0.000	0.519	0.165	0.350	0.450	
	66 0.363			18 0.275			69 0.381			0.357
早 期 癌 数	3	5	44	3	0	6	4	5	50	120
早 期 癌 率 %		52 78.8			9 50.0			59 85.5		
進 行 癌 数	2	1	11	5	0	4	2	2	6	33
切 除 例	5	5	54	6	0	10	6	7	52	145
内 視 鏡 切 除 例	2	1	22	2	0	2	3	1	15	48
非 切 除 例	0	1	1	2	0	0	0	0	4	8

手術拒否：0 手術不能：8

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	2	6	39	36	19	102
女	1	6	15	19	10	51

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	1	0	2	0	0	1	0	0	3	7	5.8%
IIa	1	1	9	2	0	0	1	0	6	20	16.7%
IIc	1	3	26	1	0	3	3	4	30	71	59.2%
IIc+III	0	0	1	0	0	0	0	0	3	4	3.3%
IIa+IIc	0	1	3	0	0	1	0	1	6	12	10.0%
そ の 他	0	0	3	0	0	1	0	0	2	6	5.0%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	3	5	44	3	0	6	4	5	50	120	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	1	1	0	1	1	0	2	6	18.2%
2	1	1	5	2	0	1	0	1	0	11	33.3%
3	0	0	1	0	0	2	1	0	1	5	15.2%
4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	6.1%
5	1	0	2	2	0	0	0	1	1	7	21.2%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	6.1%
計	2	1	11	5	0	4	2	2	6	33	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1	3	5	44	3	0	6	4	5	48	118
m	3	4	35	1	0	6	3	3	34	89
t2	2	1	6	2	0	4	2	1	4	22
t3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
t4	0	0	1	3	0	0	0	1	0	5
計	5	6	54	8	0	10	6	7	52	148
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	4	5

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)	21 ～ 50	51 ～	計	不明
車 検 診	0	7	7 43.8%	5	4	16	3
施 設 検 診	0	1	1 8.3%	9	2	12	1
内 視 鏡 検 診	26	30	56 51.4%	44	9	109	12
計	26	38	64 46.7%	58	15	137	16

表7—1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	2	1	16
M	4	7	55
L	4	2	29
全 体	0	0	0
計	10	10	100
不明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	2	8	35
大 弯	3	1	18
前 壁	1	0	19
後 壁	3	1	27
全 周	1	0	0
計	10	10	99
不明	0	0	1

表7—2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	1	1	3
M	4	1	11
L	4	0	6
全 体	0	1	1
計	9	3	21
不明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	5	1	10
大 弯	2	0	1
前 壁	0	0	3
後 壁	1	1	5
全 周	1	1	2
計	9	3	21
不明	0	0	0

表 8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計	
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線	内視鏡
I a	3	4	42	3	0	7	4	6	48	10	10	97	20 (64.5%)	97 (83.6%)
I b	1	0	4	2	0	1	0	0	2	3	0	7	3	7
II	1	1	4	0	0	1	0	0	1	1	1	6	2	6
III a	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	3	1	3
III b	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1
IV	0	0	2	3	0	0	0	1	0	3	1	2	4	2
計	5	5	55	8	0	9	6	7	52	19	12	116	31	116
不明	0	1	0	0	0	1	0	0	4	0	1	5	1	5

表 9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	Stage	前年度検診結果			備考
										検診方式	一次検診結果	精密検査結果	
東部	車	67	男	5	t2 (mp)	tub1	80×70	M 小弯	I b	施設・ 内視鏡	慢性胃炎 びらん (+)	精検不要	
	内	56	男	2	t2 (ss)	tub2	40×30	L 小弯	III a	施設・ X線	異常なし		
		66	男	2	t3 (se)	por1	48×45	ML 後壁	II	車・X線	異常なし		
		65	男	4	t4 (si)	sig	不明	UM L 全周	IV	施設・ 内視鏡	慢性胃炎 びらん (+)	要治療	
中部	車	72	男	5	t2 (ss)	por2	18×18	M 小弯	I b	車・X線	異常なし		
		64	男	3	t4 (si)	pap	60×60	M 小弯	IV	車・X線	異常なし		
		77	男	3	t4 (si)	por1	不明	L 全周	IV	車・X線	異常なし		
		81	男	1	t4 (si)	tub2	不明	L 後壁	IV	車・X線	異常なし		
		72	女	5	t2 (mp)	tub1	15×10	M 大弯	手術 不能	車・X線	異常なし		
	内	60	男	1	t2 (ss)	por2	20×20	M 小弯	I b	施設・ 内視鏡	異常なし		
西部	車	70	女	1	t2 (ss)	por	46×35	U 小弯	III b	車・X線	異常なし		
	内	69	男	3	t2 (mp)	tub2	40×35	U 後壁	III a	施設・ 内視鏡	要医療		

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

平成20年度の対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）139,232人のうち、受診者数は24,207人、受診率17.4%で、平成19年度より1.3ポイント減少した。経年受診者割合は71.7%であった。対象者数は全市町村で国が示している対象者の算定方法を取り入れられた結果、平成19年度より8,436人増えた。

一次検診の結果、要精検者数82人、要精検率0.34%、そのうち、精検受診者数74人、精検受診率90.2%であった。精検結果は、がん11人、がん発見率は0.05%、陽性反応適中度は14.9%であった。異形成は32人（軽度15人、高度17人）であった。平成19年度に比べ、がんは6人増加し、がん発見率は0.03ポイント増加となった。20～29歳は依然として受診率10%以下で低い状況であるが、がんが1人、異形成が5人発見されており、若年層の掘り起こしは非常に重要である。

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者24,207人中、体部がん検診対象者数は667人、一次検診会場での受診者は593人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は49人、受診者の合計は642人、受診率は96.3%であった。

一次検診の結果、要精検となった者13人、要精検率2.19%、精密検査受診者数は12人、精検受診率92.3%であった。精検の結果、子宮体部がんが5人、がん発見率0.84%、陽性反応適中度41.7%であった。子宮内膜増殖症は1人、また医療機関での別途受診者から子宮内膜増殖症が3人発見された。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成20年度は子宮頸部癌11名で、0期4例、I a期が3例、I b期以上が4例で、上皮内がんが増加している。I b期以上4例の検診歴は、前年度受診2例、初回受診2例であった。

異形成は32例だった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は5例（I a、I b期2例、I c期以上3例）、子宮内膜増殖症は4例であった。

4. その他

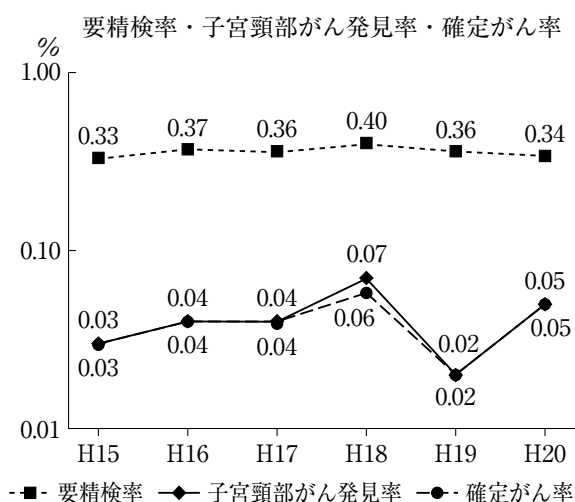
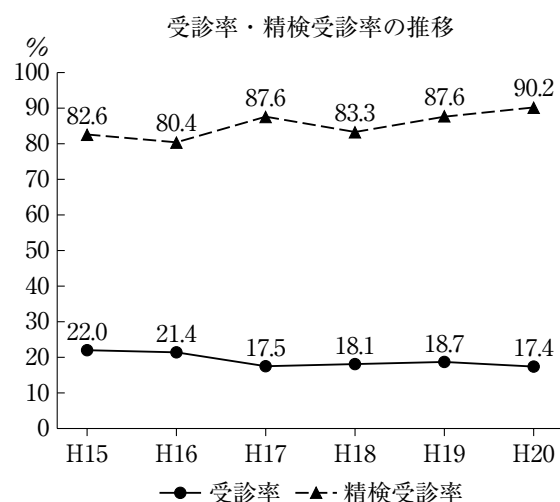
1) 平成20年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成20年度から国通知に基づき、妊婦健康診査の健診内容として子宮頸部がん検診が追加された。平成20年度実績は、妊婦健康診査受診者4,781人中、子宮頸部がん検診受診者数3,931人、受診率82.2%で、要精検者数36人、要精検率0.9%、市町村が把握できた精検結果は18人で、そのうちがんが1人、がん疑いが1人であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
一次検診	対象者数(人) A	125,191	122,868	139,203	133,250	130,796	139,232
	受診者数(人) B	27,483	26,333	24,416	24,150	24,450	24,207
	受診率(%) C = B / A	22.0	21.4	17.5	18.1	18.7	17.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	27,391	26,236	24,327	24,054	24,361	24,125
	要精検者数(人) E	92	97	89	96	89	82
	要精検率(%) F = E / B	0.33	0.37	0.36	0.40	0.36	0.34
精密検査	精検受診者数(人) G	76	78	78	80	78	74
	精検受診率(%) H = G / E	82.6	80.4	87.6	83.3	87.6	90.2
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	8(34)	10(25)	10(42)	16(36)	5(35)	11(32)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.03	0.04	0.04	0.07	0.02	0.05
	陽性反応適中度(%) K = I / G	10.5	12.8	12.8	20.0	6.4	14.9
確定調査結果	確定がん数(人) L	8	11	9	15	4	11
	確定がん率(%) M = L / B	0.03	0.04	0.04	0.06	0.02	0.05

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
 ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
 ※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
 ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成20年度子宮頸部がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 (再掲)	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
					要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	4,760	119	2.5	25	2	117	1.68
25～29歳	4,701	345	7.3	108	7	338	2.03
30～34歳	6,039	1,399	23.2	587	11	1,388	0.79
35～39歳	5,056	1,637	32.4	950	11	1,626	0.67
40～44歳	4,207	2,007	47.7	1,181	16	1,991	0.80
45～49歳	4,460	2,099	47.1	1,423	9	2,090	0.43
50～54歳	6,518	2,299	35.3	1,624	7	2,292	0.30
55～59歳	9,630	2,909	30.2	2,175	5	2,904	0.17
60～64歳	12,735	3,516	27.6	2,733	2	3,514	0.06
65～69歳	15,529	3,232	20.8	2,657	5	3,227	0.15
70～74歳	18,248	2,760	15.1	2,302	4	2,756	0.14
75～79歳	18,129	1,369	7.6	1,163	2	1,367	0.15
80歳以上	29,220	516	1.8	438	1	515	0.19
計	139,232	24,207	17.4	17,366	82	24,125	0.34

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査率 (%) g = f/d	精密検査結果							子宮頸部がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/f	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	1	50.0	0	0	1	0	1(1)	0	0	0	0.000	0.0
25~29歳	7	100.0	1	1	4	1	3(1)	1	1	0	0.290	14.3
30~34歳	11	100.0	2	2	5	1	4	2	0	2	0.143	18.2
35~39歳	10	90.9	2	1	6	3	3(3)	1	0	1	0.061	10.0
40~44歳	14	87.5	5	1	7	6	1	1	1	0	0.050	7.1
45~49歳	8	88.9	2	2	3	2	1	1	1	0	0.048	12.5
50~54歳	7	100.0	4	2	1	0	1(1)	0	0	0	0.000	0.0
55~59歳	4	80.0	2	0	1	0	1	1	0	1	0.034	25.0
60~64歳	2	100.0	1	0	1	0	1(1)	0	0	0	0.000	0.0
65~69歳	5	100.0	2	0	1	1	0	2	1	1	0.062	40.0
70~74歳	3	75.0	0	0	2	1	1(1)	1	1	0	0.036	33.3
75~79歳	1	50.0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	1	100.0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.194	100.0
計	74	90.2	21	10	32	15	17(8)	11	5	6	0.045	14.9

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

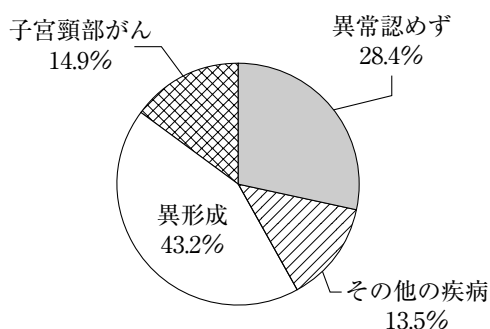
一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) c' = b'/a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	9,637	18	9,619	0.19
病 院	6,131	21	6,110	0.34
診 療 所	8,439	43	8,396	0.51
計	24,207	82	24,125	0.34

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査率 (%) e' = d'/b'	精密検査結果							子宮頸部がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/d'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	17	94.4	5	1	9	2	7(5)	2	1	1	0.021	11.8
病 院	17	81.0	3	5	5	4	1	4	2	2	0.065	23.5
診 療 所	40	93.0	13	4	18	9	9(3)	5	2	3	0.059	12.5
計	74	90.2	21	10	32	15	17(8)	11	5	6	0.045	14.9

※ () 内は中等度異形成

精密検査結果



4) 平成20年度子宮頸部がん検診受診状況

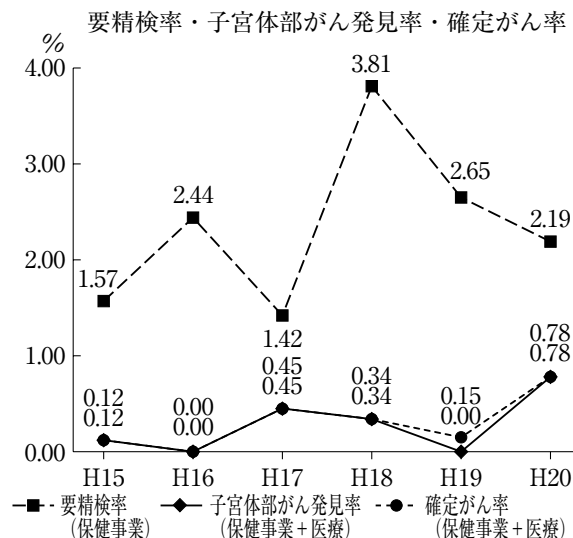
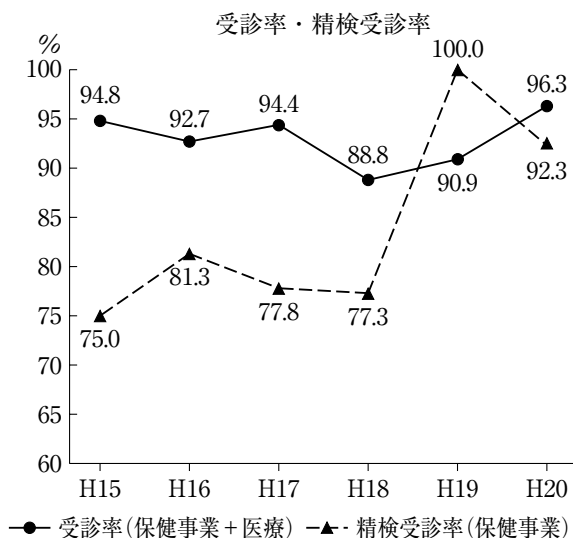
市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員										
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	精検受診 率 (%)	L	M	N	O	P = M+N+O	がん発見 率 (%)	Q = O/D	R = O/J
鳥取市	43,523	1,862	4,556	6,418	14.7	1	24	25	0.39	21	84.0	2	5	10	4	19	0.062	19.0					
米子市	33,143	0	5,921	5,921	17.9	0	26	26	0.44	26	100.0	11	3	8	15	0.068	15.4						
倉吉市	12,556	629	885	1,514	12.1	5	4	9	0.59	8	88.9	1	1	6	7	0.000	0.0						
境港市	8,086	0	917	917	11.3	0	3	3	0.33	2	66.7	1	0	1	1	0.000	0.0						
岩美町	3,227	630	31	661	20.5	1	0	1	0.15	1	100.0	0	0	1	1	0.000	0.0						
八頭町	4,552	1,194	11	1,205	26.5	2	0	2	0.17	2	100.0	1	0	0	1	0.083	50.0						
若桜町	1,237	312	12	324	26.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0						
智頭町	2,219	238	265	503	22.7	0	2	2	0.40	1	50.0	0	0	0	1	0.199	100.0						
湯梨浜町	3,996	525	353	878	22.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0						
三朝町	1,826	361	0	361	19.8	1	0	1	0.28	1	100.0	1	0	0	0	0.000	0.0						
北栄町	3,773	966	124	1,090	28.9	3	1	4	0.37	4	100.0	1	0	3	3	0.000	0.0						
琴浦町	4,933	1,118	29	1,147	23.3	3	1	4	0.35	4	100.0	2	1	0	2	0.087	25.0						
南部町	2,906	323	334	657	22.6	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0						
伯耆町	3,068	578	215	793	25.8	1	0	1	0.13	1	100.0	0	0	1	1	0.000	0.0						
日吉津村	692	42	255	297	42.9	0	1	1	0.34	1	100.0	0	0	1	1	0.000	0.0						
大山町	5,179	398	327	725	14.0	0	1	1	0.14	1	100.0	1	0	0	0	0.000	0.0						
日南町	2,044	262	0	262	12.8	1	0	1	0.38	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0						
日野町	1,240	199	43	242	19.5	0	1	1	0.41	1	100.0	0	0	1	1	0.000	0.0						
江府町	1,032	0	292	292	28.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0						
合計	139,232	9,637	14,570	24,207	17.4	18	64	82	0.34	74	90.2	21	10	32	11	53	0.045	14.9					
東部	54,758	4,236	4,875	9,111	16.6	4	26	30	0.33	25	83.3	3	5	11	6	22	0.066	24.0					
中部	27,084	3,599	1,391	4,990	18.4	12	6	18	0.36	17	94.4	5	2	9	1	12	0.020	5.9					
西部	57,390	1,802	8,304	10,106	17.6	2	32	34	0.34	32	94.1	13	3	12	4	19	0.040	12.5					

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分	15年度			16年度			17年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	885		885	743		743	710		710
	受診者数(人) B	762	77	839	657	32	689	636	34	670
	受診率(%) C = B / A	86.1		94.8	88.4		92.7	89.6		94.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	750			641			627		
	要精検者数(人) E	12			16			9		
	要精検率(%) F = E / B	1.57			2.44			1.42		
精密検査	精検受診者数(人) G	9			13			7		
	精検受診率(%) H = G / E	75.0			81.3			77.8		
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	1(3)	0(4)	1(7)	0(1)	0(2)	0(3)	3(2)	0(2)	3(4)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.13	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.47	0.00	0.45
	陽性反応適中度(%) K = I / G	11.1			0.0			43		
確定調査結果	確定がん数(人) L			1			0			3
	確定がん率(%) M = L / B			0.12			0.00			0.45

区分	18年度			19年度			20年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	672		672	732		732	667		667
	受診者数(人) B	577	20	597	641	24	665	593	49	642
	受診率(%) C = B / A	85.9		88.8	87.6		90.9	88.9		96.3
一次検診結果	異常認めず(人) D	555			624			580		
	要精検者数(人) E	22			17			13		
	要精検率(%) F = E / B	3.81			2.65			2.19		
精密検査	精検受診者数(人) G	17			17			12		
	精検受診率(%) H = G / E	77.3			100.0			92.3		
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	1(1)	1(1)	2(2)	0(7)	0(3)	0(10)	5(1)	0(3)	5(4)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.17	5.00	0.34	0.00	0.00	0.00	0.84	0.00	0.78
	陽性反応適中度(%) K = I / G	5.9			0.0			41.7		
確定調査結果	確定がん数(人) L			2			1			5
	確定がん率(%) M = L / B			0.34			0.15			0.78

- ※1 「保健事業分」=集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」=集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
- ※2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- ※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- ※4 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- ※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成20年度子宮体部がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 対象者数(人) a	一次検診 受診者数 b	受診率(%) c = b/a	一次検診結果		要精検率(%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	3	3	100.0	0	3	0.00
25～29歳	4	4	100.0	1	3	25.00
30～34歳	32	31	96.9	0	31	0.00
35～39歳	43	43	100.0	0	43	0.00
40～44歳	88	81	92.0	3	78	3.70
45～49歳	153	143	93.5	1	142	0.70
50～54歳	142	130	91.5	1	129	0.77
55～59歳	80	68	85.0	3	65	4.41
60～64歳	55	42	76.4	1	41	2.38
65～69歳	26	19	73.1	1	18	5.26
70～74歳	29	21	72.4	1	20	4.76
75～79歳	9	7	77.8	1	6	14.29
80歳以上	3	1	33.3	0	1	0.00
計	667	593	88.9	13	580	2.19

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人) f	精検受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果				子宮体部 がん発見率 (%) i = h/b	陽性反応 適中度 (%) j = h/f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮体部 がん h		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
40～44歳	3	100.0	2	1	0	0	0.000	0.0
45～49歳	1	100.0	0	0	0	1	0.699	100.0
50～54歳	1	100.0	0	1	0	0	0.000	0.0
55～59歳	3	100.0	0	1	1	1	1.471	33.3
60～64歳	1	100.0	0	0	0	1	2.381	100.0
65～69歳	1	100.0	1	0	0	0	0.000	0.0
70～74歳	1	100.0	0	0	0	1	4.762	100.0
75～79歳	1	100.0	0	0	0	1	14.286	100.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	12	92.3	3	3	1	5	0.843	41.7

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 受診者数(人) k	精 密 検 査 結 果				子宮体部がん発見率 (%) m = l/k
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん l	
20～24歳	0	0	0	0	0	0.000
25～29歳	0	0	0	0	0	0.000
30～34歳	1	1	0	0	0	0.000
35～39歳	0	0	0	0	0	0.000
40～44歳	6	4	1	1	0	0.000
45～49歳	8	8	0	0	0	0.000
50～54歳	4	4	0	0	0	0.000
55～59歳	7	6	0	1	0	0.000
60～64歳	8	6	1	1	0	0.000
65～69歳	6	5	1	0	0	0.000
70～74歳	6	3	3	0	0	0.000
75～79歳	2	2	0	0	0	0.000
80歳以上	1	1	0	0	0	0.000
計	49	40	6	3	0	0.000

4) 平成20年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員						
	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率(%)	異 常 認めず	その他 の疾病	子宮内膜 増殖症	がん	有所見者 P=M+N+0	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O			
鳥取市	260	208	208	208	80.0		3	3	1.44	3	100.0	1	1	0	1	2	0.481	33.3
米子市	214	214	214	214	100.0		7	7	3.27	7	100.0	2	1	1	3	5	1.402	42.9
倉吉市	76	69	69	69	90.8		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
境港市	31	29	29	29	93.5		1	1	3.45	1	100.0	0	0	0	1	1	3.448	100.0
岩美町	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	2	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
若桜町	1	1	1	1	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	29	29	29	29	100.0		2	2	6.90	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
三朝町	3	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	7	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
琴浦町	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南部町	19	19	19	19	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
伯耆町	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日吉津村	3	3	3	3	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
大山町	12	11	11	11	91.7		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	1	1	1	1	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	9	9	9	9	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合計	667	593	593	593	88.9		13	13	2.19	12	92.3	3	3	1	5	9	0.843	41.7
東部	263	209	209	209	79.5		3	3	1.44	3	100.0	1	1	0	1	2	0.478	33.3
中部	115	98	98	98	85.2		2	2	2.04	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
西部	289	286	286	286	99.0		8	8	2.80	8	100.0	2	1	1	4	6	1.399	50.0

(5) 平成20年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
異形成	10	9	25	23
頸癌0期	0	1	0	3
頸癌Ia期	1	0	1	3
頸癌Ib期以上	0	1	2	3
合計	11	11	28	32

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成19年度	平成20年度
内膜増殖症	10	4
体癌Ia、Ib期	0	2
体癌Ic期以上	1	3
合計	11	9

表3 発見子宮がん症例（Ib期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	2	2
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	1	1	2

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌Ia期	頸癌Ib期以上
鳥取大学	1	1	3
県立中央	2	1	0
鳥取市立	1	1	1
鳥取赤十字	0	0	0
倉吉厚生	0	0	0
博愛病院	0	0	0

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成20年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）188,186人のうち、受診者数46,015人、受診率24.5%で前年度より3.8ポイント減少した。対象者数は全市町村で国が示している対象者の算定方法を取り入れられた結果、平成19年度より12,289人増えた。

このうち要精検者は2,041人、要精検率4.44%で、平成19年度より101人、0.54ポイント増加した。精密検査受診者は1,799人、精検受診率88.1%で、昨年度より2.7ポイント増加であった。精密検査の結果、肺がん41人、肺がん疑い94人であった。肺がん発見率は0.09%であった。追跡調査の結果、確定肺がんは55人（原発性52人、転移性3人）で、確定がん率は0.12%となり、前年度よりも0.01%増加したが、がん疑いのまま確定がんに至らないケースも依然として多数あった。陽性反応適中度は前年度2.1%に比較して、平成20年度は2.3%と0.2%増加した。受診率の向上と年々増加している肺癌疑いの症例を3年間定期的にフォローしていくことが重要である。

X線受診者総数46,015人のうち経年受診者は35,386人、経年受診率76.9%であった。喀痰検査の対象となる高危険群所属者は5,684人（12.4%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,738人で、X線検査受診者の6.0%であった。そのうち要精検者は1人、要精検率0.04%で、精検未受診であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.085%、非経年受診者のがん発見率は0.103%で、非経年受診者のがん発見率の方が1.22倍高かった。また、高危険群所属者5,684人のうちがんが5人発見され、がん発見率0.088%、非高危険群所属者40,331人のうちがんが36人発見され、がん発見率0.089%で、有意差は見られなかった。

平成19年度全国集計によると、受診率21.6%、要精検率2.8%、精検受診率70.7%、がん発見率0.053%、陽性反応適中度2.4%であった。

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成20年までの発見肺がんは878人（発見率10万対68人）であった。発見方法は胸部X線782人、喀痰細胞診52人、両者42人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は71.9歳、男性532人、女性346人で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が487人（55.5%）で過半数を占め、527人（60.0%）に手術が行われた。予後調査では全症例（878例）の累積生存率は5生率45.2%、10生率27.7%であり、手術例では5生率64.7%、10生率42.5%であった。手術例IA期の5生率は72.0%、10生率は49.4%と良好な結果を示した。

2) 平成20年度調査結果

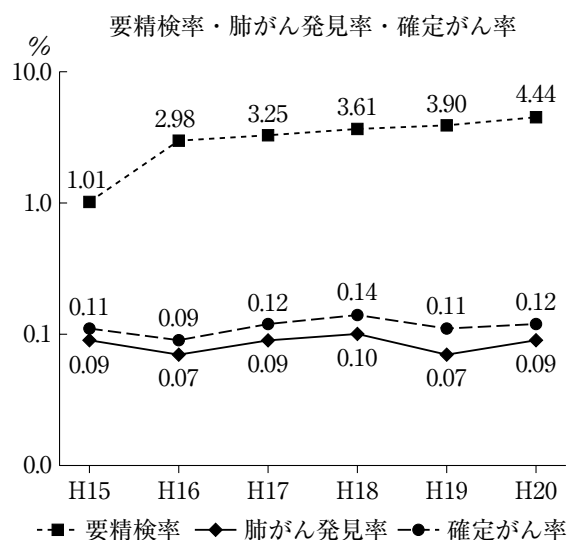
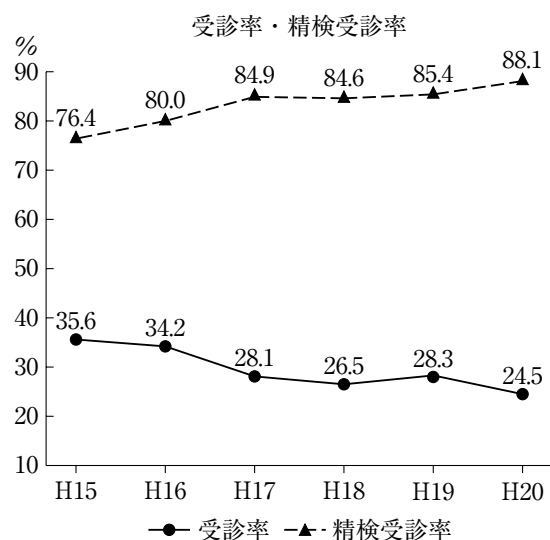
- (1) 受診者数は、平成18年度から50,000人を割り、平成20年度の受診率は過去最低の24.5%であった。要精検率は増加し続け、精検受診率も過去最高となった。がん発見率は0.113%、対人口10万あたり113人で、昨年を上回った。
- (2) 予後調査では原発性肺がん52例、転移性肺腫瘍3例、合計55例。しかしながら、E判定以外から5名の肺がんが確定しており、これらは検診発見肺がんとしては登録ができない。
- (3) 胸部X線でのみ発見された肺がんの割合は52/52例（100%）と高く、喀痰細胞診による肺がん発見は昨年に続いてなかった。
- (4) 女性肺癌は30/52例（57.7%）、腺癌は38/52例（73.1%）と高率であった。

- (5) 手術症例の割合は39/52例 (75.0%) と増加し、その背景として、I 期肺癌の割合の増加37/52例 (71.2%) がある。
- (6) 腫瘍径は平均26.1mmで、2 cm以下が24/52例 (46.2%) と過去最高であった。
- (7) 転移性肺腫瘍は3例で、原発は胆管がん1例、膵臓がん1例、前立腺がん1例であった。
- (8) 確定調査をもってしても、中部においては肺がん疑いのままで経過観察中の症例が多い。西部においては、確定調査個人票の返送がないため診断が不明となっているものが多い。
- (9) 車検診と施設検診の比較を行ったが、要精検率は車検診4.4%、施設検診4.6%で、施設検診の方が高く、特に中部地区が14.4%と高かった。原発性肺がん52人のうち車検診は32人、発見率0.102%、施設検診は20人、発見率0.138%であった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	178,762	175,873	181,410	186,314	175,897	188,186
	受 診 者 数(人) B	63,649	60,113	51,020	49,296	49,806	46,015
	受 診 率(%) C = B/A	35.6	34.2	28.1	26.5	28.3	24.5
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	63,009	58,327	49,361	47,516	47,866	43,974
	要 精 検 者 数(人) E	640	1,791	1,659	1,780	1,940	2,041
	要 精 検 率(%) F = E/B	1.01	2.98	3.25	3.61	3.90	4.44
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	489	1,433	1,409	1,505	1,656	1,799
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	76.4	80.0	84.9	84.6	85.4	88.1
精密検査結果	肺 がん の 者(人) I	58(20)	45(48)	45(87)	47(75)	35(88)	41(94)
	肺 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.09	0.07	0.09	0.10	0.07	0.09
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	11.9	3.1	3.2	3.1	2.1	2.3
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	68	52	62	67	55	55
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	65	50	57	62	48	52
	確 定 がん 率(%) N = L/B	0.11	0.09	0.12	0.14	0.11	0.12

- ※ 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- ※ 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- ※ 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- ※ 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- ※ 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者数を計上。(なお、19年度まではD判定から肺がん・肺がん疑いとなった者も追加して計上)



(2) 平成20年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数(人)		X 線 検 査										エックス線フィルム読影結果							
			受診者数		受診率(%)			経年受診者数再掲		経年受診者割合(%)		要精検者数		異常認めず		要精検率(%)			X線検査受診者中高危険群所属者	
	a		b	c = b/a			d		e = d/b		f				g = f/b					
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
40～44歳	2,115	4,207	298	784	14.1	18.6	17.1	123	356	41.3	45.4	9	11	289	773	3.02	1.40	1.85	19	8
45～49歳	2,560	4,460	401	973	15.7	21.8	19.6	231	608	57.6	62.5	10	25	391	948	2.49	2.57	2.55	34	6
50～54歳	3,635	6,518	599	1,582	16.5	24.3	21.5	357	1,041	59.6	65.8	23	54	576	1,528	3.84	3.41	3.53	204	23
55～59歳	5,170	9,630	1,139	2,814	22.0	29.2	26.7	721	2,008	63.3	71.4	32	109	1,107	2,705	2.81	3.87	3.57	430	45
60～64歳	8,313	12,735	2,190	4,321	26.3	33.9	30.9	1,376	3,122	62.8	72.3	108	161	2,082	4,160	4.93	3.73	4.13	932	68
65～69歳	10,826	15,529	3,177	5,039	29.3	32.4	31.2	2,375	4,068	74.8	80.7	147	176	3,030	4,863	4.63	3.49	3.93	1,164	67
70～74歳	12,955	18,248	3,456	5,595	26.7	30.7	29.0	2,793	4,671	80.8	83.5	172	257	3,284	5,338	4.98	4.59	4.74	1,089	55
75～79歳	11,898	18,129	2,953	4,495	24.8	24.8	24.8	2,504	3,831	84.8	85.2	171	211	2,782	4,284	5.79	4.69	5.13	812	29
80歳以上	12,038	29,220	2,412	3,787	20.0	13.0	15.0	2,054	3,147	85.2	83.1	152	212	2,260	3,575	6.30	5.60	5.87	674	25
計	69,510	118,676	16,625	29,390	23.9	24.8	24.5	12,534	22,852	75.4	77.8	824	1,216	15,801	28,174	4.96	4.14	4.43	5,358	326
合計	188,186		46,015		24.5			35,386		76.9		2,040		43,975		4.43			5,684	

※1 経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

※2 高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

②6か月以内に血痰のあった者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	喀痰細胞診受診者数(人)		喀 痰 細 胞 診 結 果				要精検率(%) j = i / h	
			要精検者数		精 検 不 要			
	h		i					
	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	25	5	0	0	25	5	0.00	0.00
45～49歳	34	7	0	0	34	7	0.00	0.00
50～54歳	88	24	0	0	88	24	0.00	0.00
55～59歳	206	34	0	0	206	34	0.00	0.00
60～64歳	420	77	0	0	420	77	0.00	0.00
65～69歳	514	92	0	0	514	92	0.00	0.00
70～74歳	488	72	0	0	488	72	0.00	0.00
75～79歳	341	31	1	0	340	31	0.29	0.00
80歳以上	263	17	0	0	263	17	0.00	0.00
計	2,379	359	1	0	2,378	359	0.04	0.00
合 計	2,738		1		2,737		0.04	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m = l / k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o = n / b			p = n / l		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	9	11	8	10	88.9	90.9	90.0	6	8	1	2	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	10	25	9	22	90.0	88.0	88.6	8	13	1	8	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	23	54	18	48	78.3	88.9	85.7	12	33	4	13	2	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	32	109	27	98	84.4	89.9	88.7	17	53	5	40	4	5	1	0	0.088	0.000	0.025	3.7	0.0	0.8
60～64歳	108	161	97	145	89.8	90.1	90.0	45	74	44	66	7	5	1	0	0.046	0.000	0.015	1.0	0.0	0.4
65～69歳	147	176	131	161	89.1	91.5	90.4	63	80	58	67	7	8	3	6	0.094	0.119	0.110	2.3	3.7	3.1
70～74歳	172	257	153	231	89.0	89.9	89.5	65	101	78	114	4	11	6	5	0.174	0.089	0.122	3.9	2.2	2.9
75～79歳	172	211	143	194	83.1	91.9	88.0	65	90	65	93	7	8	6	3	0.203	0.067	0.121	4.2	1.5	2.7
80歳以上	152	212	127	177	83.6	83.5	83.5	49	75	63	85	10	12	5	5	0.207	0.132	0.161	3.9	2.8	3.3
計	825	1,216	713	1,086	86.4	89.3	88.1	330	527	319	488	42	52	22	19	0.132	0.065	0.089	3.1	1.7	2.3
合計	2,041		1,799		88.1			857		807		94		41		0.089			2.3		
X線のみ要精検	2,040		1,799		88.2			857		807		94		41		0.089			2.3		
喀痰のみ要精検	1		0		0.00			0		0		0		0		0.000			0.0		
X線+喀痰要精検	—		—		—			—		—		—		—		—			—		

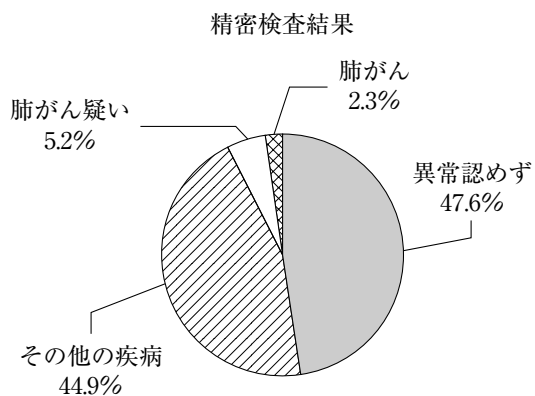
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	受診者数(人)		一 次 検 診 結 果				要精検率(%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	11,166	19,621	535	801	10,631	18,820	4.79	4.08	4.34
中国労働衛生協会	277	414	14	27	263	387	5.05	6.52	5.93
病 院	2,109	3,854	137	170	1,972	3,684	6.50	4.41	5.15
診 療 所	3,073	5,501	139	218	2,934	5,283	4.52	3.96	4.16
計	16,625	29,390	825	1,216	15,800	28,174	4.96	4.14	4.44
合 計	46,015		2,041		43,974		4.44		

b. 精密検査結果

一次検診 機 関	精密検査受 診者数(人)		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	d'		e' = d' / b'			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん f'		g' = f' / a'			h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	457	709	85.4	88.5	87.3	224	369	184	294	33	37	16	9	0.143	0.046	0.081	3.5	1.3	2.1
中国労働衛生協会	13	23	92.9	85.2	87.8	10	15	2	3	1	5	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病 院	121	150	88.3	88.2	88.3	55	60	61	83	2	4	3	3	0.142	0.078	0.101	2.5	2.0	2.2
診 療 所	122	204	87.8	93.6	91.3	41	83	72	108	6	6	3	7	0.098	0.127	0.117	2.5	3.4	3.1
計	713	1,086	86.4	89.3	88.1	330	527	319	488	42	52	22	19	0.132	0.065	0.089	3.1	1.7	2.3
合 計	1,799		88.1			857		807		94		41		0.089			2.3		



4) 平成20年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検	施設検診	計	受診率 (%)	車検	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	その他の疾病	がん疑い	が入	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J	
鳥取市	56,203	2,984	12,970	15,954	28.4	65	474	539	3.38	485	90.0	181	268	21	15	304	0.094	3.1
米子市	41,718	4,911	0	4,911	11.8	191	0	191	3.89	159	83.2	71	83	5	0	88	0.000	0.0
倉吉市	17,326	1,880	557	2,437	14.1	139	80	219	8.99	201	91.8	121	67	8	5	80	0.205	2.5
境港市	10,887	1,115	0	1,115	10.2	55	0	55	4.93	54	98.2	53	0	1	0	1	0.000	0.0
岩美町	4,781	1,046	0	1,046	21.9	26	0	26	2.49	24	92.3	13	10	1	0	11	0.000	0.0
八頭町	6,612	3,133	0	3,133	47.4	59	0	59	1.88	52	88.1	25	24	2	1	27	0.032	1.9
若桜町	1,864	619	0	619	33.2	17	0	17	2.75	15	88.2	3	11	1	0	12	0.000	0.0
智頭町	3,343	649	333	982	29.4	24	12	36	3.67	33	91.7	15	17	0	1	18	0.102	3.0
湯梨浜町	5,856	1,789	371	2,160	36.9	121	70	191	8.84	176	92.1	84	81	7	4	92	0.185	2.3
三朝町	2,750	1,291	26	1,317	47.9	62	0	62	4.71	52	83.9	21	27	2	2	31	0.152	3.8
北栄町	5,699	2,089	235	2,324	40.8	141	24	165	7.10	135	81.8	62	51	17	5	73	0.215	3.7
琴浦町	7,298	3,017	45	3,062	42.0	182	4	186	6.07	155	83.3	72	66	14	3	83	0.098	1.9
南部町	4,188	1,279	0	1,279	30.5	67	0	67	5.24	61	91.0	21	37	0	3	40	0.235	4.9
伯耆町	4,502	1,673	0	1,673	37.2	74	0	74	4.42	69	93.2	24	41	3	1	45	0.060	1.4
日吉津村	897	306	0	306	34.1	21	0	21	6.86	14	66.7	9	5	0	0	5	0.000	0.0
大山町	7,684	2,252	0	2,252	29.3	54	0	54	2.40	47	87.0	42	0	4	1	5	0.044	2.1
日南町	3,182	401	0	401	12.6	19	0	19	4.74	16	84.2	8	6	2	0	8	0.000	0.0
日野町	1,843	353	0	353	19.2	19	0	19	5.38	15	78.9	7	8	0	0	8	0.000	0.0
江府町	1,553	691	0	691	44.5	41	0	41	5.93	36	87.8	25	5	6	0	11	0.000	0.0
合計	188,186	31,478	14,537	46,015	24.5	1,377	664	2,041	4.44	1,799	88.1	857	807	94	41	942	0.089	2.3
東部	72,803	8,431	13,303	21,734	29.9	191	486	677	3.11	609	90.0	237	330	25	17	372	0.078	2.8
中部	38,929	10,066	1,234	11,300	29.0	645	178	823	7.28	719	87.4	360	292	48	19	359	0.168	2.6
西部	76,454	12,981	0	12,981	17.0	541	0	541	4.17	471	87.1	260	185	21	5	211	0.039	1.1

(3) 平成20年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性878、転移性105）	983例
他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5）	12例

総 計 995例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	50
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	3	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	68	52

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	合計
原発性肺癌	57	62	48	52	878
転移性肺腫瘍	5	5	7	3	105
合 計	62	67	55	55	983

2) 原発性肺がん診断方法

		〔H20年度集計〕				
胸 X 間 接	Dのみ	245例	782例(89.1%)	Dのみ 0例	52例(100.0%)	
	Eのみ	537例				Eのみ 52例
				(E1：39例、E2：13例)		
細 胞 診	Dのみ	18例	52例(5.9%)	Dのみ 0例	0例(0.0%)	
	Eのみ	34例				Eのみ 0例
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	42例(4.8%)	D + D 0例	0例(0.0%)	
	D + E	8例				D + E 0例
	E + D	5例				E + D 0例
	E + E	19例				E + E 0例
	不明	2例				不明 0例
計		878例		計	52例	

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
計	1,286,008	12,999(1.01%)	10,896(83.8%)	878	68

4) 原発性肺癌 (878例)

(1) 年齢・性別

[H20年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	63例	7.2
60～69歳	263	29.9
70～79歳	403	45.9
80～	149	17.0
計	878	100.0

平均年齢=71.9
男：女=532例：346例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	2例	3.8
60～69歳	16	30.8
70～79歳	25	48.1
80～	9	17.3
計	52	100.0

平均年齢=72.5
男：女=22例：30例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H20年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	342(39.0)
I B	143
II A	27
II B	58
III A	120
III B	59
IV	101
不明	26
計	878

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	25(48.1)
I B	12
II A	1
II B	2
III A	6
III B	2
IV	4
不明	0
計	52

} 37
(71.2%)

b. 組織型

〔H20年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	233例
腺癌	495(56.3)
大細胞癌	13
小細胞癌	53
腺扁平上皮癌	9
腺様嚢胞癌	1
不明	75
計	879

組織型	(%)
扁平上皮癌	5例
腺癌	38(73.1)
大細胞癌	1
小細胞癌	4
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
不明	4
計	52

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例 (527例、

手術率：60.0%)

a. 臨床病期、術後病期

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	293(55.6)	I A	258(49.0)
I B	111	I B	117
II A	13	II A	19
II B	33	II B	38
III A	57	III A	58
III B	12	III B	21
IV	6	IV	14
計	527	計	527

〔H20年度集計〕

原発性肺癌の手術症例

(39例、手術率：75.0%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	22(56.4)	I A	21(53.8)
I B	12	I B	13
II A	0	II A	0
II B	2	II B	3
III A	3	III A	2
III B	0	III B	0
IV	0	IV	0
計	39	計	39

b. 組織型分類

〔20年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	129例
腺癌	361(68.5)
大細胞癌	11
小細胞癌	6
腺扁平上皮癌	10
腺様嚢胞癌	1
不明	9
計	527

組織型	(%)
扁平上皮癌	5例
腺癌	32(82.1)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
不明	1
計	39

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

c. 根治度

〔平成20年度集計〕

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	385例(73.1)
相対的治癒手術	66
相対的非治癒手術	41
絶対的非治癒手術	28
不明	7
計	527

} 451 (85.6%)

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	23例(59.0)
相対的治癒手術	3
相対的非治癒手術	13
絶対的非治癒手術	0
不明	0
計	39

} 26 (66.7%)

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)	21(40.4)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18	6
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	71mm

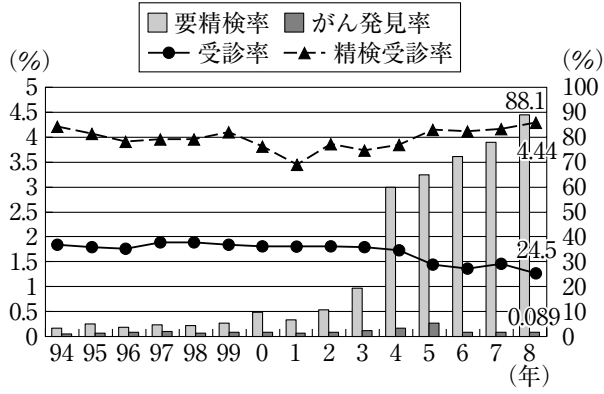
5) 転移性肺腫瘍 (105例)

大腸がん：26例 甲状腺癌：10例 腎臓癌：10例 乳癌：9例 肝臓癌：7例
 前立腺癌：7例 胆のう癌：3例 卵巣癌：2例 胃癌：3例 肺癌：2例
 子宮癌：3例 尿管癌：4例 胆管癌：3例 食道癌：2例 膵臓癌：2例
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 膀胱癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 不明：5例

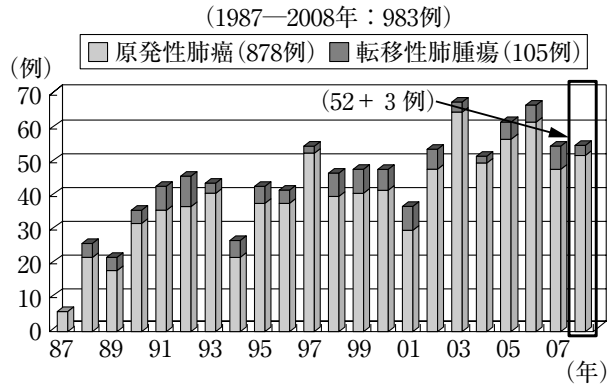
6) 平成20年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	14,537	31,478
要精検数	664(4.6%) 東部：486(3.7%) 中部：178(14.4%) 西部：—	1,377(4.4%) 東部：191(2.3%) 中部：645(6.4%) 西部：541(4.2%)
確定者数	20名(0.138%)	32名(0.102%)
発見方法	E1判定 17名 E2判定 3名	E1判定 22名 E2判定 10名
年齢	72.4歳	72.6歳
性差	男9名、女11名	男13名、女19名
臨床病期	I A 11名、I B 4名 II A 0名、II B 1名 III A 1名、III B 2名 IV 1名	I A 14名、I B 8名 II A 1名、II B 1名 III A 5名、III B 0名 IV 3名
組織型	扁平上皮癌2名、腺癌13名 大細胞癌1名、小細胞癌2名 不明2名	扁平上皮癌2名、腺癌26名 大細胞癌0名、小細胞癌2名 不明2名
手術	あり15名、なし5名	あり24名、なし8名
腫瘍径	25.3mm	26.5mm

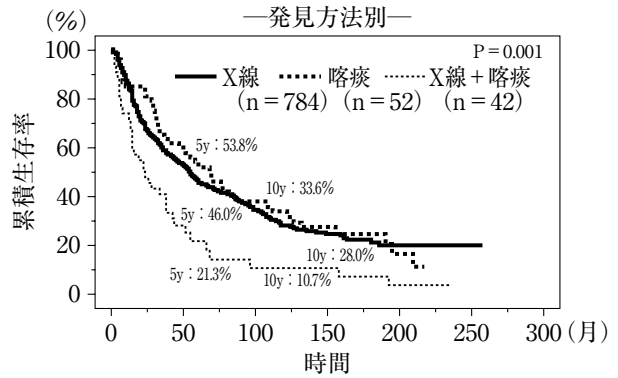
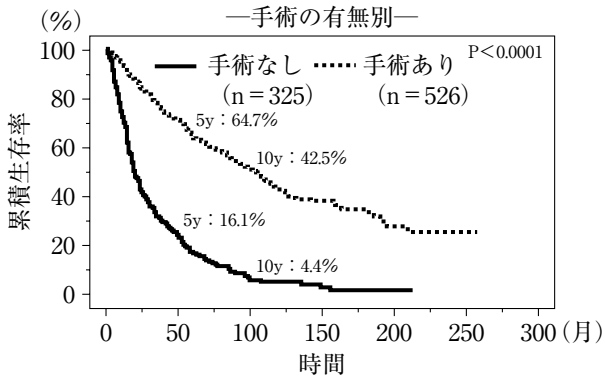
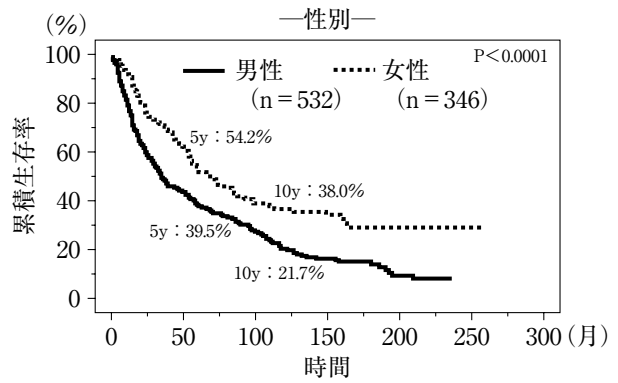
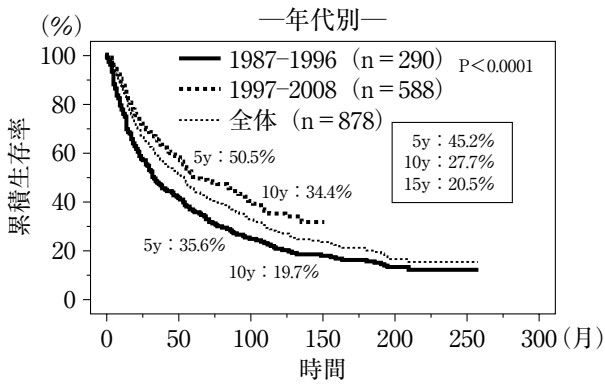
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移

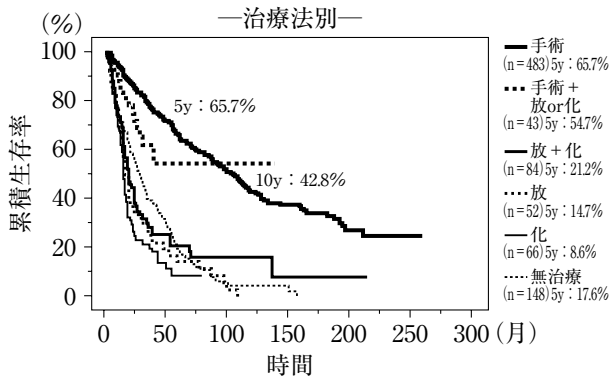
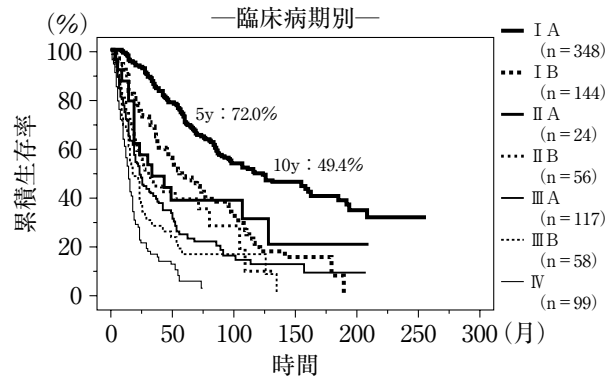
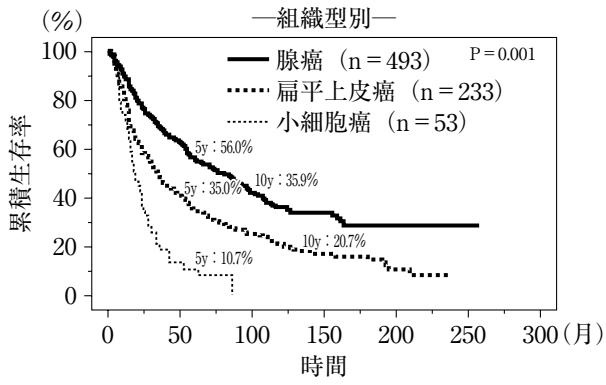


8) 検診で発見された肺癌の推移

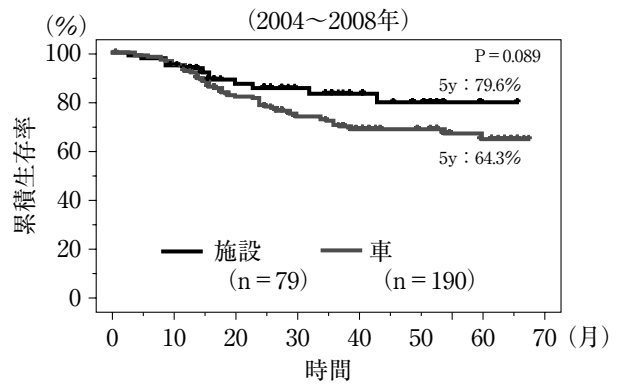


9) 検診発見肺癌の予後





10) 施設検診と車検診の予後の比較



4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成17年度より40歳以上を対象者とし、同一人が隔年でマンモグラフィ併用検診を行うことに検診内容が変更となった。平成20年度の対象者数は118,676人で、受診者数14,624人、受診率は12.3%であった。なお、2年合わせた平成20年度の最終受診率は結果的に24.0%となった。

要精検者数は1,135人、要精検率は7.76%で前年度より1.9ポイント減少した。精検受診者数は1,051人、精検受診率は92.6%と前年度を0.54ポイント減少した。この結果、乳がんが48人発見され、がん疑いは4人発見された。発見率は0.33%、陽性反応適中度は4.57%であった。前年度に比して、11人減少し、がん発見率も0.09ポイント減少した。

要精検率は全国平均の8%をやや下回って、マンモグラフィ読影の精度管理が向上したと思われる。地区別でみると東部8.54%、西部6.47%、中部8.59%と西部が特に低下していた。地区別のがん発見率は、東部0.32%、中部0.13%、西部0.45%。陽性反応適中度はそれぞれ4.1%、1.6%、7.4%と西部が良好な成績であった。この成績の違いの原因を考えると、東部では視触診の要精検例が多くなっているのに反し、西部ではマンモグラフィを見ながら視触診を行っているところもあり、これらが影響していると思われる。

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

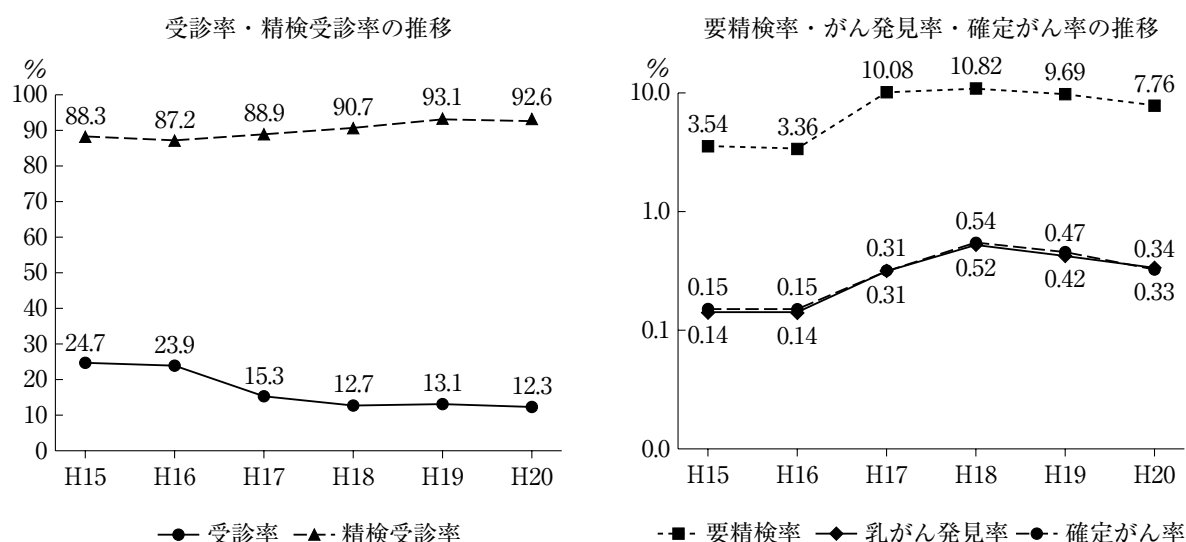
平成20年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い56例(視触診のみで発見されたがん4例も含める)について確定調査を行った結果、52例(両側1例)が確定乳がんで、良性2例、調査中1例であった。

確定乳がんは52例中5例が非浸潤がんであり、マンモグラフィによる非触知乳がんの発見が32例(61.5%)で17.2%の増加であり、乳がん検診の目的である死亡率減少効果が期待されそうである。一次検診要精検例のうちマンモグラフィで異常がなく、視触診のみ異常があったものが5例あり、マンモグラフィの撮影条件や読影等の検討が必要と思われる。また、初回検診例が57.7%と過半数を超えており、非触知乳癌の増加に貢献していると思われる。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	127,945	125,270	112,384	109,634	108,292	118,676
	受 診 者 数(人) B	31,539	29,888	17,237	13,956	14,134	14,624
	受 診 率(%) C = B/A	24.7	23.9	15.3	12.7	13.1	12.3
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	30,424	28,885	15,499	12,446	12,765	13,489
	要 精 検 者 数(人) E	1,115	1,003	1,738	1,510	1,369	1,135
	要 精 検 率(%) F = E/B	3.54	3.36	10.08	10.82	9.69	7.76
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	985	875	1,545	1,370	1,275	1,051
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	88.3	87.2	88.9	90.7	93.1	92.6
精 密 検 査 結 果	乳 がん の 者(人) I	43(6)	43(3)	53(7)	73(7)	59(8)	48(4)
	乳 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.14	0.14	0.31	0.52	0.42	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	4.4	4.9	3.4	5.3	4.6	4.6
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	46	46	53	75	67	(52) 49
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.15	0.15	0.31	0.54	0.47	0.34

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
 ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
 ※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
 ※4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
 ※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
 ()内の数値は、視触診のみ検診で発見された者を含む



(2) 平成20年度乳がん検診結果（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数 (人)	一次検診 受診者数	受診率 (%)	一次検診結果			視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数	異常認めず	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)
	a	b	c = b/a	d		e = d/b	f	g = f/b	h	i = h/b	j	k = i/b
40～44歳	4,207	1,430	34.0	163	1,267	11.40	43	3.01	110	7.69	10	0.70
45～49歳	4,460	1,316	29.5	171	1,145	12.99	27	2.05	119	9.04	25	1.90
50～54歳	6,518	1,558	23.9	156	1,402	10.01	29	1.86	119	7.64	8	0.51
55～59歳	9,630	1,747	18.1	126	1,621	7.21	28	1.60	93	5.32	5	0.29
60～64歳	12,735	2,706	21.2	189	2,517	6.98	41	1.52	139	5.14	9	0.33
65～69歳	15,529	2,295	14.8	120	2,175	5.23	24	1.05	91	3.97	5	0.22
70～74歳	18,248	2,118	11.6	123	1,995	5.81	33	1.56	87	4.11	3	0.14
75～79歳	18,129	994	5.5	59	935	5.94	17	1.71	40	4.02	2	0.20
80歳以上	29,220	460	1.6	28	432	6.09	5	1.09	21	4.57	2	0.43
計	118,676	14,624	12.3	1,135	13,489	7.76	247	1.69	819	5.60	69	0.47

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) l	精検受診率 (%) m = l / d	精密検査結果				乳がん 発見率(%) o = n / b	陽性反応 適中度(%) p = n / l
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	153	93.9	70	78	1	4	0.28	2.6
45～49歳	155	90.6	67	77	1	10	0.76	6.5
50～54歳	143	91.7	80	59	0	4	0.26	2.8
55～59歳	115	91.3	64	48	0	3	0.17	2.6
60～64歳	173	91.5	107	57	1	8	0.30	4.6
65～69歳	115	95.8	59	51	0	5	0.22	4.4
70～74歳	114	92.7	75	31	0	8	0.38	7.0
75～79歳	55	93.2	32	20	1	2	0.20	3.6
80歳以上	28	100.0	15	9	0	4	0.87	14.3
計	1,051	92.6	569	430	4	48	0.33	4.6

3) 検診機関別

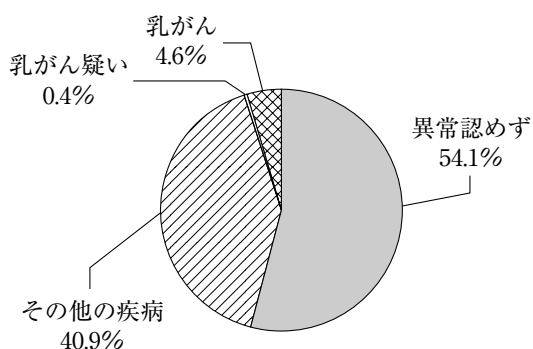
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率 (%) e' = d' / a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g' = f' / a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i' = h' / a'
保健事業団	6,507	476	6,031	7.32	102	1.57	357	5.49	17	0.26
病 院	5,929	500	5,429	8.43	122	2.06	342	5.77	36	0.61
診 療 所	1,306	115	1,191	8.81	10	0.77	93	7.12	12	0.92
そ の 他	882	44	838	4.99	13	1.47	27	3.06	4	0.45
計	14,624	1,135	13,489	7.76	247	1.69	819	5.60	69	0.47

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) j	精密検査受診率(%) k' = j' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率(%) m' = l' / a'	陽性反応 適中度(%) n' = l' / j'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	441	92.6	270	152	2	17	0.26	3.9
病 院	459	91.8	229	211	2	17	0.29	3.7
診 療 所	109	94.8	48	50	0	11	0.84	10.1
そ の 他	42	95.5	22	17	0	3	0.34	7.1
計	1,051	92.6	569	430	4	48	0.33	4.6

精密検査結果



4) 平成20年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	他の 疾病	がん 疑い	が ん	有 見者	がん 発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J	
鳥取市	35,817	1,263	2,819	4,082	11.4	141	259	400	9.80	360	90.0	211	133	1	15	149	0.37	4.2
米子市	26,968	728	2,708	3,436	12.7	37	229	266	7.74	256	96.2	102	136	0	18	154	0.52	7.0
倉吉市	10,921	399	354	753	6.9	36	29	65	8.63	59	90.8	31	24	2	2	28	0.27	3.4
境港市	6,828	70	0	70	1.0	4	0	4	5.71	4	100.0	2	2	0	0	2	0.00	0.0
岩美町	2,895	690	0	690	23.8	30	0	30	4.35	29	96.7	15	11	0	3	14	0.43	10.3
八頭町	4,101	724	8	732	17.8	59	1	60	8.20	56	93.3	32	23	0	1	24	0.14	1.8
若桜町	1,161	189	0	189	16.3	9	0	9	4.76	8	88.9	6	2	0	0	2	0.00	0.0
智頭町	2,086	0	256	256	12.3	0	9	9	3.52	8	88.9	7	1	0	0	1	0.00	0.0
湯梨浜町	3,551	299	92	391	11.0	32	9	41	10.49	38	92.7	25	13	0	0	13	0.00	0.0
三朝町	1,687	298	0	298	17.7	25	0	25	8.39	23	92.0	14	9	0	0	9	0.00	0.0
北栄町	3,400	639	130	769	22.6	45	11	56	7.28	52	92.9	35	15	0	2	17	0.26	3.8
琴浦町	4,436	766	132	898	20.2	61	19	80	8.91	78	97.5	54	24	0	0	24	0.00	0.0
南部町	2,608	265	185	450	17.3	7	11	18	4.00	16	88.9	7	8	0	1	9	0.22	6.3
伯耆町	2,844	351	121	472	16.6	16	7	23	4.87	20	87.0	6	12	0	2	14	0.42	10.0
日吉津村	582	74	57	131	22.5	1	2	3	2.29	3	100.0	1	2	0	0	2	0.00	0.0
大山町	4,702	314	164	478	10.2	6	12	18	3.77	15	83.3	6	6	1	2	9	0.42	13.3
日南町	1,957	188	0	188	9.6	5	0	5	2.66	5	100.0	4	0	0	1	1	0.53	20.0
日野町	1,165	132	30	162	13.9	6	1	7	4.32	6	85.7	5	1	0	0	1	0.00	0.0
江府町	967	0	179	179	18.5	0	16	16	8.94	15	93.8	6	8	0	1	9	0.56	6.7
合計	118,676	7,389	7,235	14,624	12.3	520	615	1,135	7.76	1,051	92.6	569	430	4	48	482	0.33	4.6
東部	46,060	2,866	3,083	5,949	12.9	239	269	508	8.54	461	90.7	271	170	1	19	190	0.32	4.1
中部	23,995	2,401	708	3,109	13.0	199	68	267	8.59	250	93.6	159	85	2	4	91	0.13	1.6
西部	48,621	2,122	3,444	5,566	11.4	82	278	360	6.47	340	94.4	139	175	1	25	201	0.45	7.4

【参考】

●平成20年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果

年 齢	対象者数 (人) a	一 次 検 診 受 診 者 数 b	受診率(%) c = b/a	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	4,207	59	1.4	3	56	5.08
45～49歳	4,460	62	1.4	7	55	11.29
50～54歳	6,518	59	0.9	8	51	13.56
55～59歳	9,630	69	0.7	8	61	11.59
60～64歳	12,735	114	0.9	7	107	6.14
65～69歳	15,529	164	1.1	9	155	5.49
70～74歳	18,248	249	1.4	10	239	4.02
75～79歳	18,129	155	0.9	1	154	0.65
80歳以上	29,220	69	0.2	3	66	4.35
計	118,676	1,000	0.8	56	944	5.60

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数 (人) f	精密検査 受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h/b	陽性反応 適中度 (%) j = h/f
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	3	100.0	1	2	0	0	0.00	0.0
45～49歳	5	71.4	1	4	0	0	0.00	0.0
50～54歳	8	100.0	3	4	0	1	1.69	12.5
55～59歳	8	100.0	6	1	0	1	1.45	12.5
60～64歳	5	71.4	3	1	0	1	0.88	20.0
65～69歳	9	100.0	6	3	0	0	0.00	0.0
70～74歳	10	100.0	7	2	0	1	0.40	10.0
75～79歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	3	100.0	2	1	0	0	0.00	0.0
計	52	92.9	30	18	0	4	0.40	7.7

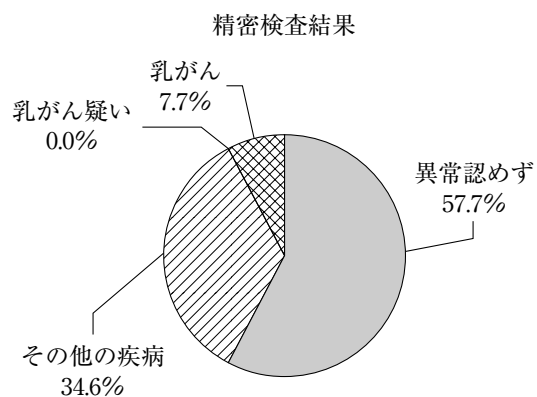
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一 次 検 診 受 診 者 数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) c' = b'/a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	153	6	147	3.92
病 院	388	29	359	7.47
診 療 所	459	21	438	4.58
計	1,000	56	944	5.60

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 (人) d'	精密検査 受診率 (%) e' = d' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応 適中度 (%) h' = f' / d'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
保健事業団	6	100.0	5	1	0	0	0.00	0.0
病 院	27	93.1	17	7	0	3	0.77	11.1
診 療 所	19	90.5	8	10	0	1	0.22	5.3
計	52	92.9	30	18	0	4	0.40	7.7



4) 平成20年度乳がん検診受診状況(視触診のみ)

市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員												
	A	B	C	D=B+C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	精検受診 率(%)	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	がん発見 率(%)	Q=O/D	R=O/J	陽性反応 適中度(%)
鳥取市	35,817	3	2	5	0.01	0	0	0.00	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	0.0	—
米子市	26,968	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
倉吉市	10,921	0	42	42	0.38	0	29	69.05	0	29	26	89.7	17	8	0	1	9	8	0	1	9	2.38	3.8	3.8	
境港市	6,828	0	727	727	10.65	0	19	2.61	0	19	18	94.7	8	8	0	2	10	8	0	2	10	0.28	11.1	11.1	
岩美町	2,895	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	4,101	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
若桜町	1,161	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	2,086	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	3,551	150	76	226	6.36	6	2	3.54	6	2	8	100.0	5	2	0	1	3	2	0	1	3	0.44	12.5	12.5	
三朝町	1,687	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北栄町	3,400	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
琴浦町	4,436	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南部町	2,608	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伯耆町	2,844	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日吉津村	582	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	4,702	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日南町	1,957	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	1,165	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	967	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	118,676	153	847	1,000	0.84	6	50	5.60	56	56	52	92.9	30	18	0	4	22	18	0	4	22	0.40	7.7	7.7	
東部	46,060	3	2	5	0.01	0	0	0.00	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	0.0	
中部	23,995	150	118	268	1.12	6	31	13.81	37	37	34	91.9	22	10	0	2	12	10	0	2	12	0.75	5.9	5.9	
西部	48,621	0	727	727	1.50	0	19	2.61	19	19	18	94.7	8	8	0	2	10	8	0	2	10	0.28	11.1	11.1	

(4) 平成20年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 56 (視触診のみで発見された「がん：4例」含む)

確定乳癌 52 (両側 1例)

良性 2、調査中 1、経過観察中 1。

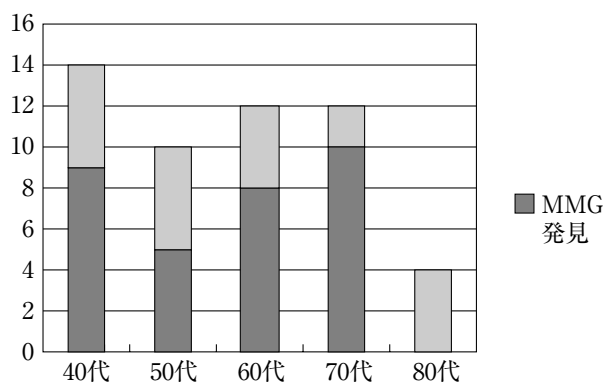
鳥取市15、米子市18、倉吉市 3、境港市 1

岩美町 3、八頭町 1、湯梨浜町 1、伯耆町 2

北栄町 2、大山町 3、南部町 1、日南町 1、江府町 1

2) 年齢構成 平均年齢 60.8歳

平成20年度

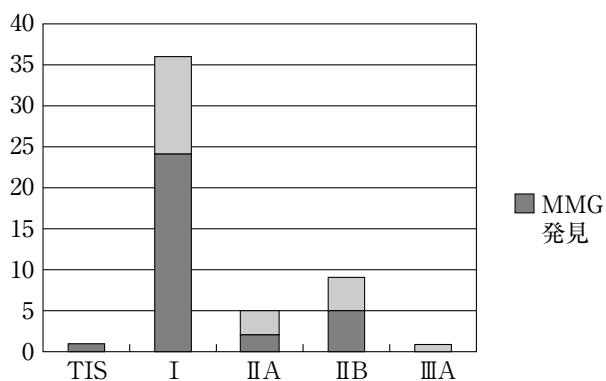


一次検診医の診断

要精検 20 (MMGで所見無し 5例。未実施 4例)

異常なし (=MMG発見) 32

3) 病期分類



4) 組織型

非浸潤癌 5

浸潤癌45、不明 2

硬癌 18

乳頭腺管癌 16

充実腺管癌 4

その他 8 (小葉癌 2、粘液癌 2)

リンパ節転移の有無 n=39

MMG発見 6/24 (25%)、1個

一次要精査 5/15 (33%)、1—2個

5) 検診歴

初回検診 30例 (57.7%)
 繰り返し検診 H18年 7例、平成17年 5例

6) 手術術式 手術数 49

	乳房温存術	乳房切除術
MMG発見	22	9
一次要精査	11	7
	33	16

腋窩郭清	あり	SLNB	なし
MMG発見	17	13	1
一次要精査	8	8	2

7) 薬物治療

	化学療法	内分泌療法
MMG発見	5/31 (16.1%)	28/31 (90.3%)
一次要精査	7/18 (38.9%)	15/18 (83.3%)

まとめ

1. 平成20年度検診発見乳癌は52例で、非浸潤癌は5例であった。40歳代が増加した。
2. マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が32例 (61.5%) と増加した。
3. 一次検診要精検例でマンモグラフィ異常なしが5例あった。
4. 初回検診例が57.7%と過半数を超えた。
5. 触知例では38.9%に化学療法が行われた。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成18年度から全市町村で1日2個法によるがん検診が実施された。

平成20年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は188,186人で、このうち受診者数は48,409人、受診率は25.7%であった。昨年より3.8%減であった。このうち要精検者数は3,912人で、要精検率8.1%、精検受診者は2,858人、精検受診率73.1%であった。対象者数は全市町村で国が示している対象者の算定方法を取り入れられた結果、平成19年度より12,819人増えた。

精密検査の結果、大腸がんは138人で昨年より7人減少した。大腸がん疑いは5人であった。がん発見率は0.29%で昨年より0.01ポイント増であった。陽性反応適中度は4.8%であった。

要精検率は東部7.6%、中部6.7%、西部9.1%、がん発見率は東部0.321%、中部0.314%、西部0.235%、陽性反応適中度は東部5.6%、中部6.3%、西部3.6%であった。また、昨年に比べ地域検診と施設検診の要精検率の格差が縮まった。

西部地区におけるがん発見率が低い状況が見られるが、西部においては注腸読影が多く行われており、その辺りが影響していると思われる。

検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団6.0%、中国労働衛生協会4.7%、病院8.3%、診療所9.9%であった。

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん143例について確定調査を行った結果、確定癌136例（地域検診41例、施設検診95例）であった。そのうち早期がんは89例、早期癌率は65.4%であった。

調査の結果は、以下のとおりであった。

- (1) 性及び年齢では男女とも65歳以上からがんが多く発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が50.7%、早期癌の肉眼分類では「Ip」「Isp」が48.3%であった。深達度は0型が多かったため、mが64例（47.0%）、smが25例（18.4%）であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が34例（25.0%）であった。
- (4) Dukes分類は「A」が85.3%、組織型分類は「Well」が53.7%、「Mod」が40.4%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が51例（37.5%）、内視鏡下手術18例（13.2%）、内視鏡治療は66例（48.5%）であった。内視鏡下手術が近年増加傾向にあるようである。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは14例（東部6例、中部1例、西部7例）であった。14例中10例は前年度の便潜血検査結果が陰性であった。精検未受診者が1例、精密検査の結果、異常なしと診断されたものが2例であった。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

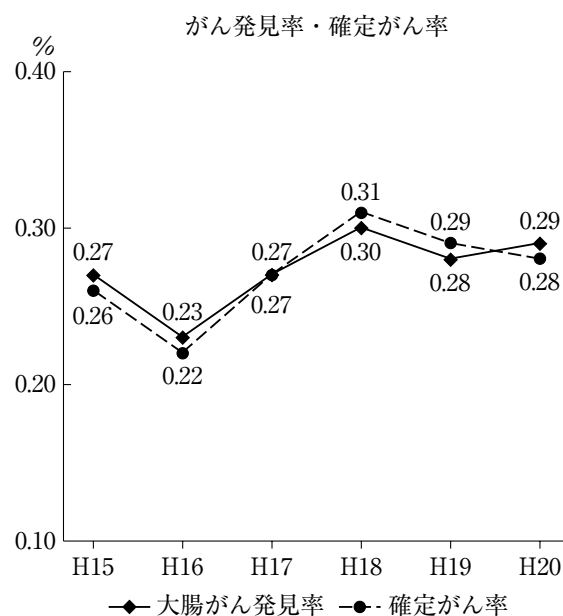
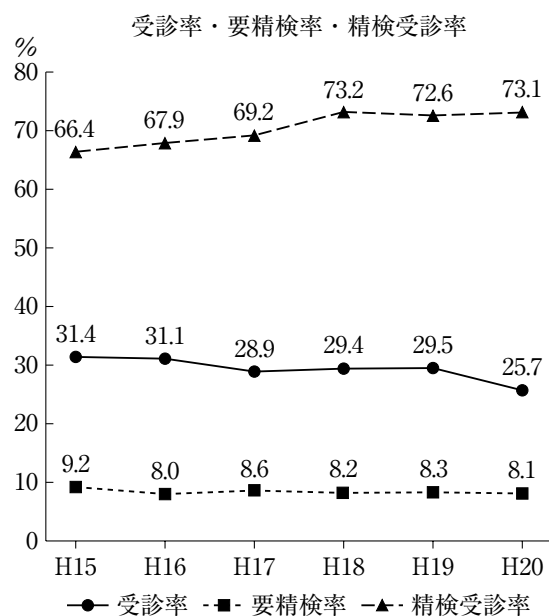
区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	179,274	174,300	180,366	176,794	175,367	188,186
	受 診 者 数(人) B	56,218	54,170	52,045	52,026	51,773	48,409
	受 診 率(%) C = B/A	31.4	31.1	28.9	29.4	29.5	25.7
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	51,024	49,818	47,569	47,782	47,468	44,497
	要 精 検 者 数(人) E	5,194	4,352	4,476	4,244	4,305	3,912
	要 精 検 率(%) F = E/B	9.2	8.0	8.6	8.2	8.3	8.1
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,449	2,955	3,097	3,108	3,126	2,858
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	66.4	67.9	69.2	73.2	72.6	73.1
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	149(8)	123(8)	138(6)	156(9)	145(5)	138(5)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.27	0.23	0.27	0.30	0.28	0.29
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	4.3	4.2	4.5	5.0	4.6	4.8
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	147	119	139	159	149	136
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.26	0.22	0.27	0.31	0.29	0.28

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成20年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,115	4,207	399	998	18.9	23.7	22.1	17	50	382	948	4.3	5.0	4.8
45～49歳	2,560	4,460	492	1,195	19.2	26.8	24.0	28	64	464	1,131	5.7	5.4	5.5
50～54歳	3,635	6,518	715	1,832	19.7	28.1	25.1	47	105	668	1,727	6.6	5.7	6.0
55～59歳	5,170	9,630	1,260	3,038	24.4	31.5	29.0	94	185	1,166	2,853	7.5	6.1	6.5
60～64歳	8,313	12,735	2,424	4,588	29.2	36.0	33.3	195	267	2,229	4,321	8.0	5.8	6.6
65～69歳	10,826	15,529	3,477	5,395	32.1	34.7	33.7	318	409	3,159	4,986	9.1	7.6	8.2
70～74歳	12,955	18,248	3,663	5,884	28.3	32.2	30.6	372	445	3,291	5,439	10.2	7.6	8.6
75～79歳	11,898	18,129	3,017	4,458	25.4	24.6	24.9	331	369	2,686	4,089	11.0	8.3	9.4
80歳以上	12,038	29,220	2,314	3,260	19.2	11.2	13.5	275	341	2,039	2,919	11.9	10.5	11.1
計	69,510	118,676	17,761	30,648	25.6	25.8	25.7	1,677	2,235	16,084	28,413	9.4	7.3	8.1
合計	188,186		48,409		25.7			3,912		44,497		8.1		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f / d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h / b			j = h / f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	10	34	58.8	68.0	65.7	5	18	5	15	0	0	0	1	0.000	0.100	0.072	0.0	2.9	2.3
45～49歳	19	42	67.9	65.6	66.3	5	26	13	15	0	0	1	1	0.203	0.084	0.119	5.3	2.4	3.3
50～54歳	23	72	48.9	68.6	62.5	9	36	13	33	0	0	1	3	0.140	0.164	0.157	4.3	4.2	4.2
55～59歳	57	148	60.6	80.0	73.5	13	70	43	68	0	0	1	10	0.079	0.329	0.256	1.8	6.8	5.4
60～64歳	144	224	73.8	83.9	79.7	36	101	97	114	1	1	10	8	0.413	0.174	0.257	6.9	3.6	4.9
65～69歳	226	319	71.1	78.0	75.0	45	137	160	171	0	0	21	11	0.604	0.204	0.361	9.3	3.4	5.9
70～74歳	285	338	76.6	76.0	76.3	75	146	193	182	1	0	16	10	0.437	0.170	0.272	5.6	3.0	4.2
75～79歳	246	272	74.3	73.7	74.0	76	112	151	149	1	0	18	11	0.597	0.247	0.388	7.3	4.0	5.6
80歳以上	185	214	67.3	62.8	64.8	64	89	113	117	0	1	8	7	0.346	0.215	0.269	4.3	3.3	3.8
計	1,195	1,663	71.3	74.4	73.1	328	735	788	864	3	2	76	62	0.428	0.202	0.285	6.4	3.7	4.8
合計	2,858		73.1			1,063		1,652		5		138		0.285			4.8		

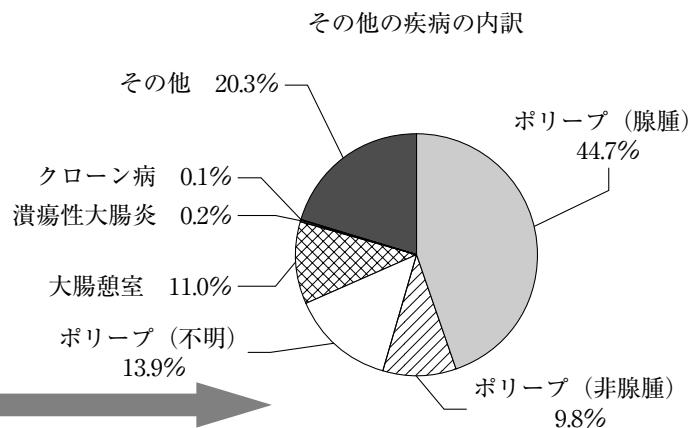
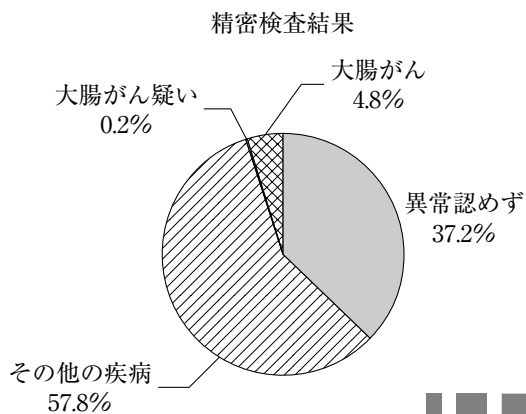
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	6,993	11,180	507	581	6,486	10,599	7.3	5.2	6.0
ファルコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中国労働衛生協会	279	400	15	17	264	383	5.4	4.3	4.7
地域検診小計	7,272	11,580	522	598	6,750	10,982	7.2	5.2	5.9
病院	2,731	4,991	284	356	2,447	4,635	10.4	7.1	8.3
診療所	7,758	14,077	871	1,281	6,887	12,796	11.2	9.1	9.9
施設検診小計	10,489	19,068	1,155	1,637	9,334	17,431	11.0	8.6	9.4
計	17,761	30,648	1,677	2,235	16,084	28,413	9.4	7.3	8.1
合計	48,409		3,912		44,497		8.1		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	360	476	71.0	81.9	76.8	90	228	245	231	1	1	24	16	0.343	0.143	0.220	6.7	3.4	4.8
ファルコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中国労働衛生協会	11	13	73.3	76.5	75.0	6	5	4	7	0	0	1	1	0.358	0.250	0.295	9.1	7.7	8.3
地域検診小計	371	489	71.1	81.8	76.8	96	233	249	238	1	1	25	17	0.344	0.147	0.223	6.7	3.5	4.9
病院	200	248	70.4	69.7	70.0	50	104	138	135	1	0	11	9	0.403	0.180	0.259	5.5	3.6	4.5
診療所	624	926	71.6	72.3	72.0	182	398	401	491	1	1	40	36	0.516	0.256	0.348	6.4	3.9	4.9
施設検診小計	824	1,174	71.3	71.7	71.6	232	502	539	626	2	1	51	45	0.486	0.236	0.325	6.2	3.8	4.8
計	1,195	1,663	71.3	74.4	73.1	328	735	788	864	3	2	76	62	0.428	0.202	0.285	6.4	3.7	4.8
合計	2,858		73.1			1,063		1,652		5		138		0.285			4.8		



4) 平成20年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員							
	A	B	C	計	施設検診	地域検診	受診率(%)	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	がん発見率(%)
鳥取市	56,203	2,323	12,401	14,724	26.2	132	1,021	1,153	7.8	866	75.1	340	471	1	54	526	0.367	6.2	
米子市	41,718	0	11,730	11,730	28.1	0	1,168	1,168	10.0	787	67.4	296	460	2	29	491	0.247	3.7	
倉吉市	17,326	1,634	580	2,214	12.8	101	60	161	7.3	124	77.0	41	77	0	6	83	0.271	4.8	
境港市	10,887	0	2,288	2,288	21.0	0	263	263	11.5	223	84.8	54	161	0	8	169	0.350	3.6	
岩美町	4,781	1,131	170	1,301	27.2	81	8	89	6.8	73	82.0	22	47	0	4	51	0.307	5.5	
八頭町	6,612	2,788	0	2,788	42.2	189	0	189	6.8	147	77.8	59	83	0	5	88	0.179	3.4	
若桜町	1,864	477	235	712	38.2	24	15	39	5.5	17	43.6	7	8	0	2	10	0.281	11.8	
智頭町	3,343	396	651	1,047	31.3	16	83	99	9.5	76	76.8	26	49	0	1	50	0.096	1.3	
湯梨浜町	5,856	884	450	1,334	22.8	58	50	108	8.1	84	77.8	30	45	0	9	54	0.675	10.7	
三朝町	2,750	672	26	698	25.4	42	0	42	6.0	32	76.2	13	19	0	0	19	0.000	0.0	
北栄町	5,699	2,115	230	2,345	41.1	120	26	146	6.2	99	67.8	37	55	0	7	62	0.299	7.1	
琴浦町	7,298	1,657	45	1,702	23.3	94	4	98	5.8	76	77.6	34	38	0	4	42	0.235	5.3	
南部町	4,188	571	628	1,199	28.6	34	69	103	8.6	76	73.8	29	45	0	2	47	0.167	2.6	
伯耆町	4,502	1,298	0	1,298	28.8	58	0	58	4.5	49	84.5	17	29	0	3	32	0.231	6.1	
日吉津村	897	340	0	340	37.9	23	0	23	6.8	14	60.9	7	6	0	1	7	0.294	7.1	
大山町	7,684	1,114	0	1,114	14.5	64	0	64	5.7	41	64.1	16	23	1	1	25	0.090	2.4	
日南町	3,182	488	82	570	17.9	32	25	57	10.0	36	63.2	18	16	1	1	18	0.175	2.8	
日野町	1,843	387	41	428	23.2	26	0	26	6.1	17	65.4	6	11	0	0	11	0.000	0.0	
江府町	1,553	577	0	577	37.2	26	0	26	4.5	21	80.8	11	9	0	1	10	0.173	4.8	
合計	188,186	18,852	29,557	48,409	25.7	1,120	2,792	3,912	8.1	2,858	73.1	1,063	1,652	5	138	1,795	0.285	4.8	
東部	72,803	7,115	13,457	20,572	28.3	442	1,127	1,569	7.6	1,179	75.1	454	658	1	66	725	0.321	5.6	
中部	38,929	6,962	1,331	8,293	21.3	415	140	555	6.7	415	74.8	155	234	0	26	260	0.314	6.3	
西部	76,454	4,775	14,769	19,544	25.6	263	1,525	1,788	9.1	1,264	70.7	454	760	4	46	810	0.235	3.6	

(3) 平成20年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	17	19	8	44	50	7	42	99	67	26	50	143
確定癌	16	19	6	41	50	7	38	95	66	26	44	136
腺腫	1	0	1	2	0	0	3	3	1	0	4	5
その他	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	1	0	1	3	8	5	5	1	24
	女	1	0	1	0	3	3	5	4	0	17
	計	1	1	1	1	6	11	10	9	1	41
施設	男	0	0	1	0	7	14	11	12	7	52
	女	0	1	2	9	6	7	3	7	8	43
	計	0	1	3	9	13	21	14	19	15	95
計	男	0	1	1	1	10	22	16	17	8	76
	女	1	1	3	9	9	10	8	11	8	60
総計		1	2	4	10	19	32	24	28	16	136

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	5	5	1	11	10	0	14	24	35(25.7)
S	4	6	1	11	13	3	7	23	34(25.0)
D	0	1	1	2	1	1	2	4	6(4.4)
T	2	4	1	7	12	0	2	14	21(15.4)
A	5	1	1	7	11	2	7	20	27(19.9)
C	0	2	1	3	3	1	6	10	13(9.6)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	16	19	6	41	50	7	38	95	136

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	4	9	1	14	11	3	6	20	34(25.0)
11～20	6	6	2	14	19	2	7	28	42(30.9)
21～50	6	3	3	12	17	1	17	35	47(34.6)
51～	0	1	0	1	3	1	3	7	8(5.9)
不明	0	0	0	0	0	0	5	5	5(3.7)
計	16	19	6	41	50	7	38	95	136

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	30	59	89(65.4)
1	1	9	10(7.4)
2	7	22	29(21.3)
3	3	3	6(4.4)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	2	2(1.5)
計	41	95	136

表6 0型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	4	13	17(19.1)
I sp	10	16	26(29.2)
I s	6	13	19(21.3)
II a	7	11	18(20.2)
II a+ II c	2	4	6(6.7)
II b	0	0	0
II c	0	2	2(2.2)
III	0	0	0
その他	0	0	0
不明	1	0	1(1.1)
計	30	59	89

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	7	11	1	24	5	16	64(47.0)
sm	4	5	2	10	0	4	25(18.4)
小計	11	16	3	34	5	20	89(65.4)
mp	3	1	1	5	0	6	16(11.8)
ss	2	1	1	8	1	10	23(16.9)
se	0	1	1	3	1	1	7(5.1)
si	0	0	0	0	0	1	1(0.7)
計	16	19	6	50	7	38	136

表 8 Dukes分類

Dukes分類	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	13	17	5	44	7	30	116(85.3)
B	1	0	0	5	0	2	8(5.9)
C	1	1	1	1	0	5	9(6.6)
D	1	1	0	0	0	1	3(2.2)
計	16	19	6	50	7	38	136

表 9 組織型分類

組織型	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	9	11	3	26	6	18	73(53.7)
Mod	6	7	2	23	1	16	55(40.4)
Por	1	0	0	0	0	1	2(1.5)
Muc	0	0	0	1	0	0	1(0.7)
その他	0	1	1	0	0	3	5(3.7)
計	16	19	6	50	7	38	136

表10 治療法

治療方法	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外 科 手 術	6	6	2	18	3	16	51(37.5)
内視鏡下手術	2	1	3	8	0	4	18(13.2)
内視鏡治療	8	12	1	24	4	17	66(48.5)
その他不明	0	0	0	0	0	1	1(0.7)
計	16	19	6	50	7	38	136

表11 平成20年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果				
												検診方式	便潜血	精密結果		
地域 検診	東部	1	72	男性	上行結腸	20mm	mp	2	Mod	++	I	地域検診	-	・	-	
		2	51	女性	横行結腸	35mm	mp	3	Por1	++	IV	地域検診	-	・	-	
		3	79	男性	上行結腸	27mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	地域検診	-	・	-	
	中部	4	60	女性	盲腸	17mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	地域検診	-	・	-	
	西部	5	78	男性	横行結腸	30mm	ss (a2)	3	Well	++	III a	地域検診	+	・	+	注腸X線 検査： 異常なし
		6	72	男性	下行結腸	30mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	地域検診	-	・	-	
施設 検診	東部	7	65	男性	直腸	20mm	mp	1	Mod	++	I	施設検診	-	・	-	
		8	68	男性	S状結腸	25mm	ss (a1)	2	Mod	+	II	施設検診	-	・	-	
		9	83	男性	直腸	35mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	施設検診	-	・	-	
	西部	10	69	女性	直腸	26mm	mp	2	Mod	++	III a	施設検診	+	・	+	大腸憩室
		11	71	女性	直腸	30mm	mp	2	Pap	+ -	I	施設検診	+	・	+	異常を認めず
		12	73	男性	直腸	25mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	施設検診	-	・	-	
		13	78	男性	盲腸	50mm	ss (a1)	1	Por1	++	II	施設検診	-	・	-	
14	77	女性	S行結腸	22mm	ss (a1)	1	Mod	++	II	施設検診	+	・	+	精密検査 未受診		

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成20年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成20年度は16市町村で実施し、対象者数171,775人のうち、受診者数は3,725人で受診率は2.2%であった。平成19年度に比べ、対象者数の捉えかたに修正が加えられた結果、平成20年度の対象者数は100,578人増、受診者数は1,947人減、受診率は5.8%減であった。要精検者数はHBs抗原のみ陽性者70人、HCV抗体のみ陽性者26人、HBs抗原・HCV抗体ともに陽性者1人の計97人で、受診者数の2.60%であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は1.9%、HCV抗体陽性率は0.7%で前年度とほぼ同様の結果であった。また、要精検者97人のうち精検受診者は73人、精検受診率は75.3%で、前年度に比べ11%増であった。精検受診者73人のうち、肝臓がん・肝臓がん疑いは0人であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は13市町村で実施された。結果は以下のとおりである。未実施の6町については、定期検査事業を取り組んで頂くよう引き続き要望を行っていくこととなった。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	919	667	122 (18.3)	6 (0.9)	3 (0.4)	1 (0.1)
C型肝炎ウイルス陽性者	646	526	278 (52.9)	23 (4.4)	12 (2.3)	3 (0.6)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成20年度の14年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数は111,100人、推計受診率は57.8%であり、そのうちHBs抗原陽性者は2,731人(2.46%)、HCV抗体陽性者は3,525人(3.17%)であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

平成7年度から平成20年度の肝臓がん検診発見がん患者の追跡調査では、確定がんは23人であった。また平成10年度から平成20年度の定期検査中に発見された確定がんは82人であった。

肝臓がん検診発見がん患者23人のうち、18人は死亡、生存中は5人であった。また、定期検査中に発見されたがん患者82人のうち、40人は死亡(他病死を含む)、生存中は42人であった。

(1) 平成20年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	一次検診 受診者数 (人) a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) $e = (b + d) / a$			HCV抗体陽性率 (%) $f = (c + d) / a$		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b		HCV抗体 のみ陽性 c		HBs・HCV ともに陽性 d							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	112	240	110	236	1	4	1	0	0	0	0.9	1.7	1.4	0.9	0.0	0.3
45～49歳	69	131	68	130	1	1	0	0	0	0	1.4	0.8	1.0	0.0	0.0	0.0
50～54歳	114	204	110	200	3	4	1	0	0	0	2.6	2.0	2.2	0.9	0.0	0.3
55～59歳	168	277	161	273	6	2	1	2	0	0	3.6	0.7	1.8	0.6	0.7	0.7
60～64歳	305	380	292	376	10	3	3	1	0	0	3.3	0.8	1.9	1.0	0.3	0.6
65～69歳	319	375	309	361	7	9	3	5	0	0	2.2	2.4	2.3	0.9	1.3	1.2
70～74歳	233	320	227	308	4	7	2	5	0	0	1.7	2.2	2.0	0.9	1.6	1.3
75～79歳	100	150	99	146	0	3	0	1	1	0	1.0	2.0	1.6	1.0	0.7	0.8
80歳以上	97	131	95	127	1	4	1	0	0	0	1.0	3.1	2.2	1.0	0.0	0.4
計	1,517	2,208	1,471	2,157	33	37	12	14	1	0	2.2	1.7	1.9	0.9	0.6	0.7
合 計	3,725		3,628		70		26		1		1.9			0.7		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者数(人)		精密検査対象者診断結果												肝臓がん発見率 h = g / a (%)				
		精密検査受診者数(人)		健康指導				脂肪肝				肝臓がん疑い				その他		男	女	
		男	女	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	男	女	男	女	男	女					
		男	女	無症候性キャリア	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
40～44歳	B型陽性	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44歳	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	B型陽性	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	B型陽性	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	B型陽性	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	B型陽性	3	4	2	5	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	B型陽性	3	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	B型陽性	2	6	1	2	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	3	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	B型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	B型陽性	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	B型陽性	20	31	15	22	0	2	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	10	11	3	4	1	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	B型陽性	51	42	19	26	1	2	9	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	21	21	7	7	1	1	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体		73	45	2	3	3	3	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

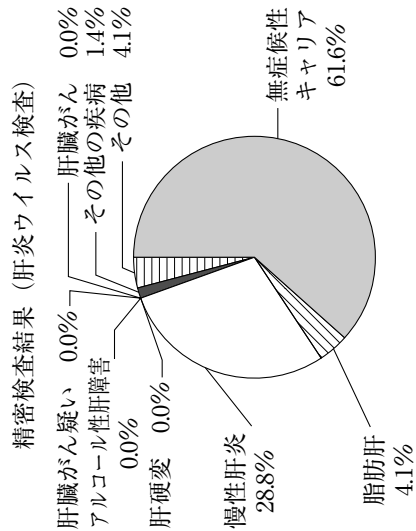
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人) a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率(%)			HCV抗体陽性率(%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	571	760	560	744	8	7	3	9	0	0	3.5	0.9	1.1	0.5	1.2	0.9
中国労働衛生協会	19	30	18	29	1	1	0	0	0	0	5.3	3.3	4.1	0.0	0.0	0.0
病院	215	301	203	294	9	7	3	0	0	0	5.6	2.3	3.1	1.4	0.0	0.6
診療所	712	1,117	690	1,090	15	22	6	5	1	0	3.7	2.1	2.0	1.0	0.4	0.7
計	1,517	2,208	1,471	2,157	33	37	12	14	1	0	3.9	1.7	1.9	0.9	0.6	0.7
合計	3,725		3,628		70		26		1		1.9			0.7		

b. 精密検査結果

一次 検診機関	区分	精密検査 受診者数 (人)		精密検査対象者診断結果												肝臓がん 発見率 (%) h' = g' / a'				
		男	女	無症候性キャリア			脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん g'		その他の疾病		その他	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
保健 事業団	B型陽性	3	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	3	8	1	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働 衛生協会	全体	6	14	4	9	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	B型陽性	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	5	6	4	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
診療所	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	7	6	5	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	B型陽性	12	18	8	13	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	ともに陽性	5	3	1	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	18	21	10	14	1	0	7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	B型陽性	20	31	15	22	0	2	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	ともに陽性	10	11	3	4	1	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	全体	31	42	19	26	1	2	9	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	B型陽性	51	51	37	37	2	2	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1



4) 平成20年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査実施状況
 実施市町村数 = 16 未実施市町村数 = 3

市町村名	対象者数(人)		受診者数			陽性者数				精密検査結果				人員							
	A	B	集団検診	医療機関	計	受診率(%)	HBs抗原のみ陽性	HCV抗体のみ陽性	HBs抗原HCV抗体ともに陽性	H	I = (F+H)/D	HBs抗原陽性率(%)	HCV抗体陽性率(%)	精受診者数	精受診率(%)	無症候性キャリア	その他疾病	がん疑い	が入	有所見者	が発見率(%)
						E = D/A	F	G	H		J = (G+H)/D			K	L = K/(F+G+H)	M	N	O	P	Q = N+O+P	R = P/D
鳥取市	41,139	151	1,313	1,464	3.6	35	10	0	0	2.4	0.7	33	73.3	19	14	0	0	14	0.000		
米子市	67,231	0	172	172	0.3	1	0	0	0	0.6	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000		
倉吉市	20,002	526	0	526	2.6	3	6	0	0	0.6	1.1	8	88.9	5	3	0	0	3	0.000		
境港市	8,045	0	515	515	6.4	13	4	1	1	2.7	1.0	17	94.4	10	7	0	0	7	0.000		
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
八頭町	500	122	0	122	24.4	3	1	0	0	2.5	0.8	3	75.0	2	1	0	0	1	0.000		
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
智頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
湯梨浜町	7,791	160	128	288	3.7	4	2	0	0	1.4	0.7	5	83.3	5	0	0	0	0	0.000		
三朝町	127	0	26	26	20.5	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000		
北栄町	266	132	0	132	49.6	2	0	0	0	1.5	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000		
琴浦町	8,203	163	36	199	2.4	4	1	0	0	2.0	0.5	3	60.0	3	0	0	0	0	0.000		
南部町	4,188	10	46	56	1.3	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000		
伯耆町	7,674	30	0	30	0.4	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000		
日吉津村	19	2	0	2	10.5	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000		
大山町	1,787	50	26	76	4.3	0	1	0	0	0.0	1.3	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000		
日南町	1,379	0	83	83	6.0	3	1	0	0	3.6	1.2	1	25.0	0	1	0	0	1	0.000		
日野町	1,738	2	0	2	0.1	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000		
江府町	1,686	32	0	32	1.9	2	0	0	0	6.3	0.0	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000		
合計	171,775	1,380	2,345	3,725	2.2	70	26	1	1	1.9	0.7	73	75.3	45	28	0	0	28	0.000		
東部	41,639	273	1,313	1,586	3.8	38	11	0	0	2.4	0.7	36	73.5	21	15	0	0	15	0.000		
中部	36,389	981	190	1,171	3.2	13	9	0	0	1.1	0.8	16	72.7	13	3	0	0	3	0.000		
西部	93,747	126	842	968	1.0	19	6	1	1	2.1	0.7	21	80.8	11	10	0	0	10	0.000		

(2) 平成7～20年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成20年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	定期検査結果																	
	健康指導対象者						健康指導対象者診断名											
	健康指導対象者 (平成20年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成21年10月31日現在の実人員)		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん		その他の疾病		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	10	9	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	19	40	7	11	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	40	55	14	32	1	3	2	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	43	90	15	60	0	5	6	11	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1
60～64歳	56	91	24	73	2	3	6	14	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1
65～69歳	58	80	53	94	1	4	9	12	0	0	2	0	0	0	2	0	1	0
70～74歳	56	93	43	68	3	1	9	10	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0
75～79歳	30	72	32	58	1	3	8	9	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1
80歳以上	31	46	27	48	0	1	7	11	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	343	576	219	448	8	20	50	72	1	5	5	5	0	1	0	1	2	3
合計 (比率%)	919		667 (100)		28 (4.2)		122 (18.3)		6 (0.9)		5 (0.7)		1 (0.1)	3 (0.4)		9 (1.3)		3 (0.4)

2) 平成20年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	定期検査結果																	
	健康指導対象者						健康指導対象者診断名											
	健康指導対象者 (平成20年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成21年10月31日現在の実人員)		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん		その他の疾病		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	3	5	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	7	9	1	6	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	14	15	3	12	0	2	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
60～64歳	9	39	7	27	3	6	1	18	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
65～69歳	22	55	20	53	5	21	1	13	28	0	2	0	0	1	0	0	1	0
70～74歳	44	116	35	89	6	32	0	26	48	1	1	0	0	2	0	0	3	0
75～79歳	35	110	28	90	8	30	0	17	46	1	4	0	0	1	1	0	2	1
80歳以上	61	98	52	100	23	39	0	21	43	3	10	0	0	1	3	0	2	2
計	196	450	147	379	46	135	2	84	194	5	18	0	0	7	5	0	10	3
合計 (比率%)	646		526 (100)		8 (1.5)		278 (52.9)		23 (4.4)		0 (0.0)		3 (0.6)	12 (2.3)		10 (1.9)		11 (2.1)

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(3) 平成7～20年度肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数(人)		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
	a		陽性者数 b		陽性率(%) c = b/a			陽性者数 d		陽性率(%) e = d/a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	2,455	5,525	94	154	3.83	2.79	3.11	35	46	1.43	0.83	1.02
45～49歳	2,428	5,583	118	193	4.86	3.46	3.88	34	96	1.40	1.72	1.62
50～54歳	2,630	6,895	124	238	4.71	3.45	3.80	34	153	1.29	2.22	1.96
55～59歳	3,234	8,663	98	257	3.03	2.97	2.98	70	247	2.16	2.85	2.66
60～64歳	6,442	12,436	190	253	2.95	2.03	2.35	189	457	2.93	3.67	3.42
65～69歳	8,004	13,041	205	255	2.56	1.96	2.19	287	511	3.59	3.92	3.79
70～74歳	7,367	11,453	130	197	1.76	1.72	1.74	301	447	4.09	3.90	3.97
75～79歳	3,304	5,471	59	77	1.79	1.41	1.55	146	222	4.42	4.06	4.19
80歳以上	2,298	3,871	27	62	1.17	1.60	1.44	107	143	4.66	3.69	4.05
計	38,162	72,938	1,045	1,686	2.74	2.31	2.46	1,203	2,322	3.15	3.18	3.17
合計	111,100		2,731		2.46			3,525		3.17		

(4) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成20年度基本健康診査肝炎ウイルス検査より発見されたがんまたはがん疑い
発見がんなし

2) 平成20年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ (mm)	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	70	男	肝癌	治療予定		単発	S5	12×12			B	4
2	77	女	肝癌	未治療		単発		25×25			C	2012
3	84	女	肝癌	T/R	09.9.7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	3643
4	71	女	癌疑い			単発	S7	10×10			C	13.9
5	75	女	癌なし								C	11.8
6	59	男	肝癌	18年度報告済							B	
7	67	女	肝癌	18年度報告済							B	
8	81	女	切除	18年度報告済							C	
9	81	男	肝癌	18年度報告済							C	
10	78	女	肝癌	18年度報告済							C	
11	69	男	肝癌	18年度報告済							C	
12	75	男	切除	18年度報告済							C	
13	66	男	肝癌	18年度報告済							C	
14	80	男	RFA	19年度報告済							C	
15	63	女	肝癌	19年度報告済							B	
16	60	女	肝癌	19年度報告済							C	
17	75	男	肝癌	19年度報告済							C	
18	79	男	肝癌	19年度報告済							C	
19	82	女	肝癌	19年度報告済							C	

3) 平成7年度～平成19年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		00. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	無再発生存中
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 2. 9	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、4年2か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	NT		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	通院中断
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	無再発生存中
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	無再発生存中
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後
44	68	男	切除	04. 9. 13.	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	3年10か月後再発
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	不明	不明	不明	20×20	不明	有	C	予後調査中
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	有	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	生存中
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	生存中
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	10か月後再発
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	無再発生存中
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	2年後再発
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	無再発生存中
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	無再発生存中
61	68	男	肝癌否定		(単)	S6	13×13)	腫瘍	無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	浸潤	有	C	1年9か月後再発
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	無再発生存中
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
66	82	女	不明	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	3年7か月後再発
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、生存中
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、生存中
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	無再発生存中
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	未治療		単発	S5	35×35		無	C	不明
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	3ヵ月後再発

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男女	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	2年5か月後再発
75	63	女	T/R		単発	S8	16×16			B	予後調査中
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	3年後再発
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	有	B	1年1か月後再発
78	74	男	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
79	60	女	RFA	07. 7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	無再発生存中
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	生存中
81	80	女	TAE	03. 3.	単発	S2/3	20×20			C	3年10か月後再発
82	77	女	TAE	08. 10. 7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	3か月後再発

4) 平成7年度～平成19年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95. 10. 24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96. 2. 20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C	死亡
3	63	女	切除	96. 3. 13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C	10年1か月後再発
4	83	男	TAE	96. 7. 15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96. 8. 29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96. 10. 25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96. 11. 1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96. 11. 22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97. 1. 7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97. 11. 17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97. 11. 17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97. 12. 4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98. 3. 3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98. 7. 31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99. 12. 15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00. 12. 23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01. 9. 19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04. 8. 2	2個	S1, 5	25×25	腫瘍	有	C	3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05. 10. 17	2個	S1, 4	30×30	腫瘍	有	C	3年11か月死亡
20	67	女	切除	06. 8. 9	単発	S8	25×25			B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06. 11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08. 3.	単発	右葉	100×100			C	予後調査中
23	60	男	TAE	08. 4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	生存中

7. 全国がん検診実績との比較

(単位:人 %)

区 分		平成20年度実績 (鳥取県)	平成20年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	38,235,041	(県) 受診者・がん発見 = 「X線」「内視鏡」の合計値
	受診者数(人)	42,799	3,916,203	要精検・精検受診 = 「X線」のみの数値
	受診率(%)	22.7	10.2	精検受診者 = 精検結果未把握の者を除く (以下同じ)
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数(人)	1,363		(国) 報告書記載の数値 (「X線」の数値)
	要精検率(%)	7.50		精検受診者 = 「要精検者 - 未受診者」により算定
	精検受診者数(人)	1,131		→精検結果未把握の者を含む (以下同じ)
	精検受診率(%)	83.0		
	がんの者(人)	144		
	がん発見率(%)	0.34		(受診率順位) 報告書(概要)記載の数値による順位 (以下同じ)
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数(人)	139,232	32,176,112	(県) 「頸部」の数値 (「体部」は除く)
	受診者数(人)	24,207	3,499,278	(国) 「頸部のみ」の数値
	受診率(%)	(27.7) 17.4	(19.4)	隔年検診となったため受診率()は次により算定されている。
	受診率順位	(10) 位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	82		
	要精検率(%)	0.34		※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	74		全国 $\frac{(3,538,132) + (3,499,278) - (786,172)}{(32,176,112)} = 19.4$
	精検受診率(%)	90.2		
	がんの者(人)	11		鳥取 $\frac{(24,450) + (24,207) - (9,954)}{(139,232)} = 27.7$
がん発見率(%)	0.05			
肺 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	37,468,696	(県・国) 「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く)
	受診者数(人)	46,015	6,685,467	※国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診率(%)	24.5	17.8	
	受診率順位	17位	—	
	要精検者数(人)	2,041		
	要精検率(%)	4.44		
	精検受診者数(人)	1,799		
	精検受診率(%)	88.1		
	がんの者(人)	41		
がん発見率(%)	0.09			

区 分		平成20年度実績 (鳥取県)	平成20年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数(人)	118,676	23,514,832	(県・国)「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上
	受診者数(人)	14,624	1,792,176	
	受診率(%)	(24.0) 12.3	(14.7)	隔年検診となったため受診率()は次により算定されている。
	受診率順位	(9) 位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	1,135		
	要精検率(%)	7.76		※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	1,051		全国 $\frac{(1,892,834) + (1,792,176) - (229,171)}{(23,514,832)} = 14.7$
	精検受診率(%)	92.6		
	がんの者(人)	48		鳥取 $\frac{(14,134) + (14,624) - (183)}{(118,676)} = 24.0$
	がん発見率(%)	0.33		
大 腸 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	3,945,562	
	受診者数(人)	48,409	6,418,334	
	受診率(%)	25.7	16.1	
	受診率順位	6 位	—	
	要精検者数(人)	3,912		
	要精検率(%)	8.08		
	精検受診者数(人)	2,858		
	精検受診率(%)	73.1		
	がんの者(人)	138		
	がん発見率(%)	0.29		

(出典) 鳥取県数値(受診率順位を除く) = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値及び鳥取県の受診率順位 = 地域保健・老人保健事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・老人報告事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 精検受診者は、鳥取県の数値には精検結果が未把握の者が含まれないのに対し、全国の数値には当該者が含まれるため、鳥取県の数値は全国の数値に比して低水準となる傾向がある。
- 3 肺がん検診の数値は、喀痰検査のみ受診した者の数値を含まない。
- 4 要精検者数等については、平成20年度分から翌年度集計となったため、空欄としている。

Ⅲ. 平成21年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成21年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事業名	開催日時	場所	出席者	内容
子宮がん 検診従事者講習会及び 症例検討会	平成22年2月14日(日) 午後3時30分～ 午後5時50分	鳥取市 鳥取県健康会館	57名	演題：「ベセスダシステム運用の実際」 講師：癌研究会有明病院健診センター所長兼細胞診断部長 平井康夫先生 症例提示5例
肺がん 検診従事者講習会及び症 例研究会	平成22年2月20日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	77名	演題：「肺がん検診の現状と課題：胸部CT検診を中心に」 講師：金沢医科大学病院呼吸器外科特任教授 佐川元保先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—2例：鳥大医 胸部外科
乳がん 検診従事者講習会及び第 15回鳥取県検診 発見乳がん症例 検討会	平成21年8月22日(土) 午後4時～午後5時35分	米子市 西部医師会館	64名	演題：「ホルモン感受性乳癌に対する治療」 講師：福山市市民病院乳腺甲状腺外科科長 小野亮子先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 尾崎佳三先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 岡田泰司先生 西部—1例：鳥大医 器官再生外科学 石黒清介先生
大腸がん 検診従事者講習会	平成21年8月29日(土) 午後4時～午後5時45分	倉吉市 倉吉交流プラザ 「視聴覚ホール」	82名	講師：江府町国民健康保険江尾診療所所長 武地幹夫先生 講師：鳥取大学医学部附属病院第2内科講師 原田賢一先生
肝臓がん 検診従事者講習会及び 症例研究会	平成22年2月13日(土) 午後4時～午後5時50分	米子市 西部医師会館	95名	演題：「肝臓がん治療の現状と今後の展望」 講師：山口大学大学院医学系研究科消化器病態内科学准教授 山崎隆弘先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 松木 勉先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 万代真理先生 西部—1例：山陰労災病院 西向栄治先生

※胃がん検診従事者講習会及び症例研究会は、平成22年2月6日～7日に鳥取県健康会館において開催しました「第40回日本消化器がん検診学会中国四国地方会・第40回中国四国地方胃集検の会」を充てるとしました。

1. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成22年2月14日（日） 午後3時30分～午後5時50分

場 所 鳥取県健康会館

症例検討：鳥取大学医学部産婦人科講師、板持広明先生の進行により施設検診5例の症例検討が行われた。

年代別では20代1例、30代2例、40代1例、50代1例。内訳は子宮頸部がん3例、子宮体部がん2例であった。子宮頸部がん例では3例とも前年度の細胞診がクラスⅡで、一年後の検診ではクラスⅢb（1例）～クラスⅤ（2例）であった。見直しではクラスⅡはクラスⅢ以上とすべきであると板持先生より指摘があった。

子宮体部がんは2例とも前年の細胞診は陰性判定であったが、疑陽性とするべきではないかと指摘があった。

今後は見落としわれぬよう異常のない細胞診を見直していく体制作りにも真剣に取り組んでいかなければならないだろう。また鳥取県ではベセスダシステムによる判定が22年度より始まるが、新分類について熟知する必要がある。

平成21年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TMN分類	
症例1	26歳	鳥取市	H20.01.08	梅澤産婦人科医院	class II	鳥取県立中央病院	microinvasive carcinoma	I a1期	T1a1NXM0	鳥取県立中央病院
			H21.02.20	梅澤産婦人科医院	class V microinvasive carcinoma					
症例2	34歳	米子市	H18.08.01	博愛病院	class II	博愛病院	Squamous cell carcinoma	I b1期	pT1b1N0M0	鳥取大学医学部附属病院
			H19.07.31	博愛病院	class II					
			H20.07.29	博愛病院	class III b severe dysplasia					
症例3	37歳	米子市	H18.08.25	母と子の長田産科婦人科クリニック	class II	鳥取大学医学部附属病院	microinvasive carcinoma	I a期	T1a1NXM0	鳥取大学医学部附属病院
			H19.11.24	母と子の長田産科婦人科クリニック	class II					
			H20.07.28	母と子の長田産科婦人科クリニック	class V microinvasive carcinoma					
症例4	45歳	鳥取市	H19.12.18	梅澤産婦人科医院	体部：陰性	梅澤産婦人科医院	endometrial adenocarcinoma	III a期	pTIIIapN0pM0	鳥取県立中央病院
			H20.12.12	梅澤産婦人科医院	体部：疑陽性					
症例5	58歳	米子市	H17.12.16	母と子の長田産科婦人科クリニック	頸部：class II (体部なし)	鳥取大学医学部附属病院	endometrioid adenocarcinoma	I a期	T1a1NXM0	鳥取大学医学部附属病院
			H18.12.22	母と子の長田産科婦人科クリニック	頸部：class II (体部なし)					
			H19.12.18	井田レディースクリニック	頸部：class II 体部：陰性					
			H20.08.05	母と子の長田産科婦人科クリニック	頸部：class II 体部：陽性					

2. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成22年2月20日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 陶 山 久 司

症 例：50歳代、男性

主 訴：特になし（胸部異常影）

既往歴：26歳時に右気胸に対する手術歴（詳細不明）、45歳時に右甲状腺瘤のため甲状腺右葉切除術

生活歴：喫煙歴30—40本/日 18—45歳

現病歴及び経過：

2年毎に鳥取県立中央病院で人間ドックを受けている。これまでは胸部異常影を指摘されたことはない。平成21年度の人間ドックで撮影した胸部X線写真で右上肺野異常影を指摘されたため、鳥取県立中央病院内科を初診した。当院胸部CTで右S1に大きさ9×8mm大の小結節を認めた。薄切CTでは多角形の辺縁部を有する小結節で、周囲血管のbranchingやpenetrationは認めなかった。初診時点で経皮的CTガイド下針生検の相談をしたものの、ご本人の同意を得ることが出来なかった。このため「低線量CTによる肺がん検診 肺結節の判定と経過観察第2版」に準拠し、1か月後に再度薄切CTを撮影することにした。

1か月後の胸部薄切CTでは小結節の大きさには変化はなかったものの、周囲血管と結節影の距離がわずかに近接していたことから、血管収束を伴う腫瘍であると判定し、積極的に肺癌を疑った。全身検索の過程で行ったPET-CTではSUVmax early 1.5→delay 1.4であった。経皮的CTガイド下針生検を行い腺癌と診断を得た。手術療法を選択し、最終診断は肺腺癌pT1N0M0病期IAであった。

考 察：末梢型肺癌では腫瘍中心に瘢痕が存在し、腫瘍自体が収縮傾向を持つので、腫瘍の大きさを評価する際には訂正腫瘍径の概念が重要になる。即ち、見かけ上の大きさに変化がなくとも、経過により偏位した気管支血管構造を元に戻せば腫瘍は見かけより大きいとする概念である（鈴木ら、診断と治療65；1424-1436、1975）。高性能CTの時代では関与する1mm単位あるいはそれ以下のサイズの気管支、血管も検討対象となり、訂正腫瘍径はますます重要な概念であると考えられている。

本症例は訂正腫瘍径の概念を基に肺癌を積極的に疑うことができた。ところが、初診時点でも画像所見から積極的に肺癌を疑うことが出来れば1か月放置する必要はなかったということが反省点である。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 吹 野 俊 介

症 例：60歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：高血圧

生活歴：たばこなし

現病歴：毎年検診を受けていたが、異常なしであった。

平成21年11月の検診で胸部異常陰影を指摘された。

平成21年12月精査目的で当院受診となった。

検査所見：167cm、60kg。血液、尿、一般性化学検査に異常なし。

腫瘍マーカー：CEA、SLX、SCC抗原、NSE、シフラ、ProGRPはすべて正常範囲内。

呼吸機能：FVC：3.68L（103.7%）

FEV1.0：2.62L（71.2%）

平成19年の検診胸部X線写真では、右上肺野に第2肋骨の軟骨部と後方の肋骨との重なるところに淡い陰影をみとめるが、肋骨の重なりと判断してもよいような陰影である。しかしその陰影の周囲には胸膜陥入によると考えられる線状陰影を認める。この時点で肺癌の疑いでE1の判定をすべきであった。さらに平成20年の検診写真でも同様の所見であるが、前年と変化なしとみなしてC判定になっていた。そして平成21年の検診では腫瘍陰影が肋骨陰影を越えてきてE1判定となった。反省すべき症例である。

CTにて、右S1に3cm大のGGOを伴う腫瘍がある。幸い肺門・縦隔のリンパ節の種大は認められなかった。c-T1bN0M0画像上肺癌は確定的として、術中迅速診断を併用して手術を行った。

術中迅速診断で腺癌の診断を得て、胸腔鏡下右上葉切除術、ND2a-1郭清（2R、4R、11s、12u、13、14）を施行した。右S1に2.9×2.6×1.6cmの腫瘍、CTのごとく中心は充実性で周囲は淡い腫瘍である。高分化腺癌、p-T1bN0M0、pl0d0e0pm0（pl0）、p-Stage 1Aであった。術後経過良好で、術後9日目に退院した。

1期肺癌に関して、平成22年1月より、肺癌取り扱い規約の改訂7版に従って病期分類することとなった。当院での1A期の変化は旧規約では1A期242例が、新規約では200例に減少し、そのうちわけは、新1A期ではT1aが126例、T1bが74例、新1B期には42例がT2aとして入ることとなった。それは、これまでの胸膜弾力膜浸潤においてpI1以上がT2aとなったからである。

当院のp-1A期の5生率は、旧規約では80.5%、新規約では83.8%となりました。

まとめ：1. 中部地区の見逃し症例を報告しました。

2. 腫瘍陰影周囲の線状影より肺癌の存在の予測をする必要がある。

3. 肺癌取り扱い規約の変更でp-1A期、p-1B期の5生率の変化を今後注目していく必要がある。

〔西部症例〕

鳥取大学医学部附属病院胸部外科 三 和 健

症例1：72歳、男性

主 訴：胸部異常影

現病歴：毎年検診を受けていた。平成15年にC判定、その後B判定、C判定のみで経過が追われ、これまで精査を受けたことはなかった。平成21年の検診でE1判定となり、当科紹介となった。

臨床経過：胸部CTで左S3に大きさ41mm、辺縁不整で内部に複数の気管支拡張像を伴う腫瘍影を認めた。FDG-PET検査で有意な集積を認めず気管支鏡生検にて悪性所見を認めなかったが、経過をみて出現してきた陰影であったため手術施行となった。術中の生検結果は腺癌であり、胸腔鏡下左肺上葉切除術＋リンパ節郭清術を施行した。腫瘍径は42×23×15mm、中分化型腺癌でpT2aN0M0、病期IBと診断された。

症例2：68歳、女性

主 訴：胸部異常影

現病歴：毎年検診を受けていた。平成16年はB判定、その後B判定、C判定のみで経過が追われ、平成21年の検診でE1判定となり、当科紹介となった。

臨床経過：胸部CTで右S2に大きさ32mm、一部充実部を伴うGGOを認めた。FDG-PET検査でSUV max 2.17と軽度集積亢進を認め、肺腺癌を疑い胸腔鏡下右肺上葉切除術を施行、腫瘍の迅速病理にて腺癌であり、リンパ節郭清術を施行した。腫瘍径は29×22×20mm、中分化腺癌でpT1N0M0、病期IAと診断された。

検 討：検診で5年以上経過をみた2症例を提示した。症例1はBabble-like appearance型腺癌で、いわゆる「枯れた肺癌」と呼称される発育速度の遅い肺癌であった。一見陰影に変化がないために陳旧性炎症として経過観察されやすい。症例2は肺胞構築置換型の腺癌であった。GGOを反映して、最初はCTでのみ確認できる淡い陰影を示すが、充実部を伴ってくると間接撮影で確認できる例があり注意が必要である。

まとめ：B判定、C判定のみで複数年経過を追っている症例では、発育が緩徐な肺癌の可能性を考慮して一度はCTによる精査（E判定）をすべきと考えられた。

3. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成21年 8月22日 (土) 午後 4時～午後 5時35分

場 所 鳥取県西部医師会館

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 尾 崎 佳 三

症 例：乳がん検診の経過観察中に、短期間で出現した乳癌症例

54歳、女性

平成18年12月に職場検診で乳がん検診を受診した。マンモグラフィーで左乳房の石灰化病変（カテゴリー 3）を指摘され、平成19年 1月に当科初診。当院でのマンモグラフィーでは、左乳房M領域に石灰化病変を認めたが、カテゴリー 2と判断し、以後、3か月ごとの慎重な経過観察を行った。マンモグラフィー上、石灰化病変に大きな変化は認めなかった。6か月間経過観察を行ったところで、著変を認めなかったため、当科での経過観察を終了し、検診受診を勧めた。平成20年11月に職場検診を受診され、腫瘍性病変で要精査となり、当院再診となる。当院で行った再検査で、右M領域に腫瘍性病変を認めカテゴリー 4と判断した。術前画像検査では、7.7×8.5mmの腫瘍を認めた。マンモトーム検査では、Invasive ductal Carcinoma, schirrous typeであった。以上より右乳癌の診断で、非定形乳房切除術、level I、II郭清を行った。

本症例において、約1年足らずの間に出現してくる、比較的進行の早いタイプの腫瘍もあり、マンモグラフィー上、指摘し難い病変が疑われる場合には、他のモダリティーを組み合わせた慎重な診断が必要と思われた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 岡 田 泰 司

症 例：確定診断までに時間を要した検診発見癌の1例

75歳、女性

平成20年11月の乳がん検診で、MMG上右乳房の腫瘍を指摘された。同年12月当院受診、右A領域に8mmの腫瘍（カテゴリー 3）を認めた。エコーでは、同じく右A領域に7mmの球形、辺縁やや不正の腫瘍を認めた。エコーガイド下に細胞診を行ったがClass IIの診断であり、2か月後の再検とした。平成21年 2月、腫瘍の性状に変化なく、細胞診でもClass IIであったが、同年 5月に再度細胞診を行ったところClass IIIbであり、生検を行ったところ硬癌の診断であった。6月に追加切除とセンチネルリンパ節生検を行い、最終的のn0、ly0、v0、ER+、PR+、HER20であった。

確定診断まで時間を要したが、現在ホルモン療法を施行中で再発は認めていない。非触知乳癌に対するエコーガイド下の細胞診は最近頻繁に行われるようになったが、Class IIIb以上の腫瘍に対しては積極的に生検を行うこととしており、今回も、時間は要したが的確な診断が得られた症例であった。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部器官再生外科学 石 黒 清 介

症 例：石灰化の経過観察中に小葉癌を併発した浸潤性乳管癌 1例

50歳、女性

平成18年12月前医でMMG検診を受け石灰化を指摘。エコー、MRIで病変特定できず当科

紹介。石灰化近傍の細胞診を施行するも異常なく、半年に1回の経過観察となった。平成20年3月にはステレオガイド下針生検を行うも悪性所見認めず。平成21年4月左乳房腫瘤を自覚。石灰化とは離れたA領域に、エコーで径1cmの腫瘍性病変を認め、細胞診で乳癌と診断。CTでは腫瘍に一致して8mm大の造影効果を認める病変とCD領域に淡く造影される領域を認めた。T1N0M0 stage I乳癌として乳房切除術+センチネルリンパ節生検を行った。病理ではAC領域を中心に小葉癌が、CD領域広範に浸潤性乳管癌が認められた。リンパ節への転移はなかった。石灰化病変の同定は困難でありマンモトーム生検が必要である。しかしカテゴリ-3で発見される石灰化の多くは良性であり、病変がエコーで同定できない場合は経過観察としている。診断の遅れが予後与える影響は少ないと思われるが、乳房温存が困難になることが問題である。

4. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成22年2月13日(土) 午後4時～午後5時50分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 松 木 勉

症 例：50歳代、男性

主 訴：肝腫瘍精査

現病歴：近医にて高血圧、B型慢性肝炎にて加療中。

平成13年3月6日よりラミブジン内服治療によりトランスアミナーゼは安定しているが、平成21年7月より徐々にAFPが上昇傾向を示している。

平成21年7月23日、平成21年10月20日のダイナミックCTで腫瘍濃染は指摘できず、MRIによる精査を紹介、受診された。

既往歴、家族歴には特記事項なし。

現 症：貧血、黄疸なし。その他自他覚的に異常はみられない。

前医データ：

	2009.4.28	6.9	7.21	8.18	9.15	10.13
AFP値	11.2	14.2	22.6	31.7	48.1	78.0

入院時データ：TP 7.8g/dl、Alb 4.7g/dl、T.Bil 1.4mg/dl、D.Bil 0.4mg/dl、GOT 16IU/l、GPT18 IU/l、LDH 177IU/l、Alp 26IU/l、 γ -GTP 26IU/l、CRP 0.03mg/dl、WBC 6200/ μ l、RBC 499万/ μ l、Hb 16.3、Plt 22.5万/ μ l、HBs-Ag(+)、HCV-Ab(-)、PT 63.3%、AFP 235.3ng/ml、PIVKA.EC 23mAU/ml、ICG15 10.5%
GSA LHL15 0.943、Liver damage A、Child-Pugh score A (6)

画像検査

ダイナミックMRI：

肝S5辺縁に8.5mmのT₂WIで淡い高信号域あり。T₁WIのout of phaseではin phaseより信号低下しており、微量の脂肪を含有する可能性がある。

dynamic studyでは早期濃染を示し、後期相にてwashoutされる。比較的高分化なHCCが疑われる。

ダイナミックCT：

肝S5辺縁に10mmの低吸収結節あり。動脈相では周囲肝実質と同等に造影されるが、造影後期にはwashoutされる。MRIにて認めた部位に一致しており、比較的高分化なHCCが疑われる。

治 療：肝S5とS6の一部を含めた肝部分切除をおこなった。

腫瘍は境界明瞭で12×10mm、中分化型肝細胞癌中索状：moderately differentiated hepatocellular carcinoma, middle-trabecular type (Edmondson分類：Ⅱ型)の増生像が観察された。

考 案：B型慢性肝炎で、ラミブジン投与によりトランスアミナーゼが安定している症例にAFPの上昇が見られた。ダイナミックCTで肝細胞がんの診断がつかずダイナミックMRIで診断ができた。

画像上は高分化成分を含む肝細胞がんと診断したが、手術標本の組織診断は中分化型肝細胞がんであった。AFPは手術前には急に上昇しており、急速な悪性化を示していたと思われる。肝表面にあり超音波診断が比較的行いにくい部位でもあり、血液生化学、腫瘍マーカー、画像診断の細かな経過観察が有用であった症例と思われる。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 万代真理

症 例：70才、女性

主 訴：なし

生活歴：飲酒なし。喫煙なし。

既往歴：特記事項無し。

現病歴：献血時にHCV抗体陽性を指摘され、慢性C型肝炎として前医加療中であった。平成21年3月AFPが2,559ng/mlと上昇、肝dynamic CTにて肝S4に26×19mmの腫瘍を認め、肝細胞癌の疑いにて当科紹介紹介となり、加療目的に入院となる。

入院時現症：

身長 148cm、体重 58kg。眼瞼結膜貧血認めず、眼球結膜黄染を認めず。胸部に異常所見を認めず。腹部は平坦、軟、圧痛なし。右季肋部に肝1横指触知した。下腿浮腫なし。

入院時検査所見：

WBC 5510/ μ l、Hb 12.6g/dl、Plt 18.1万/ μ l、T.Bil 0.3mg/dl、AST 28IU/L、ALT 18 IU/L、ALP 291IU/L、 γ -GTP 22IU/l、T.P 7.2g/dl、Alb 4.1g/dl、LDH 244IU/L、BS 101mg/dl、PT 93%、HBsAg (-)、HCVAb (+)、AFP 4,283KIU/ml、PIVKA-II 2006 mAU/ml、CEA 2.8mg/dl、CA19-9 2.3mg/dl。

腹部超音波検査：肝S4に27.6mm×26.8mmのモザイク状のSOLを認め、腫瘍は中肝静脈を圧排していた。

肝dynamicCT：肝S4に28mm大の腫瘍を認め、動脈早期相で腫瘍の周辺に造影効果を認め、平行相でwash outを認めた。

肝プリモビストMRI：S4 28mm大の腫瘍を認め、動脈早期では腫瘍の周辺が不均一に濃染し、平行相ではwash outされ、肝細胞相ではプリボビストの取り込みの低下を認めた。

肝血管造影：血管造影ではA4末梢に淡い腫瘍濃染を認め、CTHAでは腫瘍の周辺が不均一に濃染、CTAPでは門脈血流の欠損を認め肝細胞癌と診断した。腫瘍は単発で腫瘍径は30mm、背景肝は慢性肝炎と肝予備能は良好であった。腫瘍径が約3cmあり、中肝静脈を圧排していることから、経皮的治療より外科的切除を選択し、肝内側区域切除を行った。

手術所見：肉眼では、腫瘍径3cm、境界は明瞭であった。出血はわずかにみられたが、壊死は殆どみとめず、術後診断はT2N0M0、Stage IIであった。組織学所見では、腫瘍部分はHEP(一部)、AFP、サイトケラチンAE1/3、EMA、CEA(ごく一部)、ビメンチン(一部)に陽性、CA19-9に陰性であった。ロゼット形成を示す未熟な肝細胞癌様成分、横紋筋肉腫を含む未熟な肉腫成分を認め、肝内胆管癌成分はみとめず、肝芽腫と診断した。

考 察：肝芽腫は通常小児に発生する原発性肝悪性腫瘍であり、成人発症はまれとされている。画像所見では、腫瘍の部分的な造影効果が認められるとされている。治療方法の第1選択は外科的切除とされ、小児では治癒切除であってもシスプラチン、アドリアマイシン併用による全身化学療法を行うことが推奨されている。本症例では、各画像検査で腫瘍辺縁に濃染を認めたことが肝細胞癌には典型的ではなかったが、背景に慢性C型肝炎が存在するこ

と、腫瘍マーカーの上昇などから術前診断は肝細胞癌と判断していた。典型的な画像所見を呈さない場合には、本症例のようにまれな腫瘍である可能性もあり、組織学的検索を行うことがその後の治療方針を検討する上でも有用であると考えられた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

C型慢性肝炎に対するインターフェロン著効後14年後に肝細胞癌を発症した1切除例

山陰労災病院

消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、川田壮一郎、角田宏明、向山智之、神戸貴雅、謝花典子、古城治彦、川崎寛中

外科 野坂仁愛、鎌迫 陽、谷田 理

放射線科 井隼孝司

症 例：70歳台男性

主 訴：肝腫瘍の精査

既往歴：21歳：肺結核で右葉切除術時に、4Lの輸血を行い1ヶ月後に輸血後肝炎を発症

家族歴：肝疾患なし

生活歴：飲酒3合×30年、喫煙20本/日×30年

現病歴：58歳時、C型慢性肝炎の診断で、IFN α を6ヶ月間投与した。

その後、血中HCVRNAは陰性化し、肝機能も正常化した。開始前の腹腔鏡では、肉眼ではPreLC、肝生検では、F3、A2であった。AST104、ALT97.HCV-RNA：(probe法) < 0.5MEQ/ml、：(RT-PCR定性)：陰性、(RT-PCR定量)：<1.0kcopy/ml：(競合法)：10*2.5コピー/50 μ l：サブタイプ 2型(1B) + 3型(2A)、線維化マーカーは、PIIP 0.99U/ml (<0.8)、IV7Scol 5.5ng/ml (<6)、HA 77ng/ml (<50)。

その後、半年ごとに外来USでフォローしていたが、血液検査で、PIVKAII高値4708AU/mlを指摘された。造影CTで、肝S8横隔膜ドーム直下に4cm大の腫瘍を認め入院した。

腹部US：萎縮肝であったが、病変部は肺のガスの影響で、観察は困難であった。

腹部血管造影、CTAP、CTA：HCC(VP1、stage3)と診断された。

上記診断し、外科的に肝S8部分切除術が施行された。単純結節周囲増殖型Well diff HCC、Trabecular type、Edmondson II typeと診断された。

考 察：一般に、C型慢性肝炎に対するIFN療法は、ウイルス排除、肝炎の鎮静化、肝線維化改善、肝癌発生の抑制を目的とする。また、血中HCVRNA陰性化の得られた著効例はHCC発生率が低いとされる。しかし依然として、1.1~4.9%と報告されている。また、その発生時期は、IFN著効後5年以内の発症が多いとされている。現在まで、約50例以上の文献報告が散見される。川野らは、(2007)、IFN著効後にHCCを確認した44例を集計した。発見年齢は、平均62.5歳(52~72歳)の高齢者に多く、性別は男：女=41：3で、男性に多く、治療前の線維化は、F1：5例、F2：11例、F3：10例、F4：2例で、線維化の進んだ症例に多い。血中HCVRNAが陰性化した後そのHCCの発見までの期間は、平均46.5ヶ月(1~124ヶ月)：最長14年であり、そのうち30例、つまり68%が5年以内に発見されている。発見時の腫瘍径は平均33.4mm、AFPあるいはPIVKAIIの腫瘍マーカー上昇は26例=65%に認められた。治療は74%に肝切除が行われている。また、IFNによるHCV陰性化後のHCC発症の危険因子として、1)男性、2)55歳以上の高齢者、3)治療前の進行した線維化、4)飲酒歴等があげられる。本例は血中のHCVRNAが陰性化が14年経過し肝

炎は正常化していた。しかし、ハイリスクグループであると認識して、発癌の可能性をシビアにとらえる必要があったと思われた。また、早期発見するために、CTの併用や現在保険認可されたAFPとPIVKAⅡの同時測定チェック、通院間隔の短縮などの工夫が必要に思われた。

結 語：IFN治療後にHCVウイルスが消失しても高齢者男性は発ガンする可能性が比較的高く、AFP、PIVKAⅡの腫瘍マーカーの同時測定、US+CTなどを今まで以上に頻回に行う必要がある。今後、同様なSVR症例のHCCの発生増加が予測される。

5. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	13	24	414	7	17	181	27	4,388	672	47	4,429	1,267
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	5	13	49	12	48	126	6	24	80	23	85	255
乳 がん	1	8	30	1	3	24	1	4	31	3	15	85
大腸がん	10	18	401	1	1	30	25	97	636	36	116	1,067
肝臓がん	4	5	149	5	13	119	5	13	93	14	31	361
合 計	33回			26回			64回			123回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、がん検診の有効性向上のため、精度管理上、各がん検診精密検査医療機関登録の登録基準について、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が次のとおり改正され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がございましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
肺がん検診精密検査	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
乳がん検診精密検査	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
大腸がん検診精密検査 (注腸X線)	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H22. 4. 1～H25. 3. 31	H24年度中	H22. 4. 1～H25. 3. 31
肺がん一次検診	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	
乳がん一次検診	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成20年度より適用）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東・中・西部 各1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できるか又はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会 (全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会 (全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会 (全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録基準

- 1 次の基準にあうエックス線撮影装置で注腸エックス線検査が実施できること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 2 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 3 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 8 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV—RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) プロブは、128素子以上の高密度多素子プロブであること。
 - (3) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (4) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (5) 観察用モニターは、9インチ以上であること。

*上記基準に合致しなくても本委員会が承認した装置であればよい。（承認装置は別紙を参照）
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点

（高根県開催も対象）

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
 - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
 - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
 - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
 - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、生活習慣病検診等管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね、会長の言葉にもあるように一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第16報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 吉 中 正 人